東大阪市立図書館基本構想

平成 27 年 3 月

東大阪市

目 次

第 :	[章	全体構想	1
1	. はじ	しめに	1
	1. 1.	背景・趣旨	1
	1. 2.	位置付け 2	2
	1. 3.	策定経過	2
2	. 構想	lの前提	3
		本市の特徴	
	2. 2.	公共図書館が市民のためにできること	3
3	. 図書	簡サービス網の整備方針!	Э
	3. 1.	基本的な考え方	5
		既存施設の活用	
		他施設との複合機能化	
		移動図書館	
	3. 5.	街角図書館の普及促進	8
		中央館的機能の確保	
4	. 図書	 館サービスの整備方針	9
		基本サービス	
		特色あるサービス1	
		情報発信・PR 等の強化16	
5	. 実施	[スケジュール	7
第2	2章	個別サービス構想18	8
1		「て支援サービス18	
		必要機能(提供サービス)18	
		施設等構成2	
	1. 3.	実現に向けた課題	2
2	. 学校	i連携	4
	2. 1.	必要機能(提供サービス)24	4
		必要な設備2	
		実現に向けた課題20	
3		シネス支援サービス2′	
		必要機能(提供サービス)2	
		施設等構成29	
	3. 3.	実現に向けた課題30	0

第1章 全体構想

1. はじめに

1.1. 背景·趣旨

本市は、平成32(2020)年を目標年次として平成15(2003)年2月に策定した「東大阪市第2次総合計画」(東大阪2020ビジョン)において、「前期基本計画」に続き、「後期基本計画 第2編 部門別計画」の「第2部 市民文化を育むまちづくり」の「9節 いくつになっても学べるまち」の中で「図書館の蔵書の充実」をうたっており、現在まで二次を数える「実施計画」に「図書館利用者の利便性の向上」を掲げ、その具体化を図ってきています。

また、市教育委員会では、第2次総合計画に先立ち平成7(1995)年に「新図書館網整備計画基本構想」を策定し、同「基本構想」に沿って、地区図書館(以下「地区館」)や分室の整備などを行い、3館2分室1移動図書館の体制で運営してきました。

しかし近年、市民と市政を取り巻く社会経済情勢や環境の変化は著しく、策定後十数年を経た「基本構想」ではそれらに的確に対応し難く、また、築後50年を経過して狭隘、老朽化し、耐震性に問題のある永和図書館の建替整備問題を契機として、図書館の計画行政、市立図書館整備の全体計画が強く求められるようになってきました。

こうした状況を受けて、平成 18(2006)年 11 月、市教育委員会は東大阪市図書館協議会に対し「これからの東大阪市立図書館のあり方について」諮問し、同協議会は1年半にわたる調査、協議を経て、平成 20(2008)年 6 月に答申をいただきました。

その後、市では、平成 24(2012)年 12 月に 3 館のうち永和図書館について布施の暫定施設に移転しました。

次いで、平成 25(2013)年 11 月、旭町図書館と永和図書館の再整備を含めた「東大阪市公共施設再編整備計画」を策定しました。同計画では、老朽化により耐震性に問題のある旭町庁舎の建て替えにともない、旭町図書館を新東部地域図書館として再整備し、郷土博物館、埋蔵文化財センターおよび市史史料室と共に、新たな文化関係複合施設とするものとしています(平成 33(2021)年度オープン予定)。また永和図書館(暫定施設)については、布施から永和地域に移転し、「新永和図書館」として再整備するものとしています(平成 31(2019)年度オープン予定)。

また、本市では、平成 26(2014)年 5 月に開催された平成 26 年度指定管理者制度運用会議において、平成 28(2016)年 4 月より全図書館を指定管理者制度へ移行する方針を決定しました。

以上により、今後市立図書館については、現在の3館2分室1移動図書館を適切に管理 運営していきながら、旭町図書館と永和図書館(暫定施設)を再整備するための具体的な 計画を策定し、推進していく必要があります。

そこで、今後の市立図書館全体の機能・サービス等のあり方を整理したうえで、再整備する新たな2館がどのような機能・サービスを担うべきかを検討するため、ここに新たな「東大阪市立図書館基本構想」を策定することとしました。

1.2. 位置付け

上記の背景・趣旨から、本構想は、平成20(2008)年6月にまとめられた「これからの東大阪市立図書館のあり方について」(東大阪市図書館協議会答申)における提言等も踏まえ、現在の利用者である50万市民はもとより、東大阪市の未来を担う次世代の市民に伝える確かな社会資本として市立図書館網が整備され、幅広い市民の関心と参画のもとに、市民の役に立つ市民起点の図書館サービスを創造し展開を図っていくことを基本とし、今後の図書館像を描くものです。

その具体化の一歩として、本構想は、「東大阪市公共施設再編整備計画」に基づき再整備する2館の設計・工事等に反映すると共に、その他の施設等におけるサービス整備を進めていく上での基本指針とします。

1.3. 策定経過

本構想の策定にあたっては、平成 25(2013)年 12 月から現在まで東大阪市図書館協議会を開催し、市より提示された基本構想案について審議が重ねられました。この間、本市では、市民の皆様へのアンケート調査(3 種類)を実施し、今後の図書館に必要なサービスについて検討するとともに、庁内関係部局や庁外関係団体等と協議調整を進めてきました。市民アンケート調査結果や庁内外との協議調整経過は、逐次、東大阪市図書館協議会に報告・説明され審議の参考とされました。

2. 構想の前提

2.1. 本市の特徴

本市は豊かな文化・教育資源をもつまちです。大学のまち、府立図書館があるまち、人 気作家ゆかりのまち。これらの豊かな文化・教育資源を生かした図書館サービスを考えま す。

(1) 大学のまち

本市には、近畿大学、大阪商業大学、大阪樟蔭女子大学、東大阪大学(短期大学)、 樟蔭東短期大学の4つの大学と1つの短期大学がある「大学の集積するまち」です。

また、本市は鉄道の便が良く、市外から数多くの学生が集まるまちです。同時に大学で教える教員が集まるまちであり、大学の図書館や公開講座等、市民が学べる施設や機会が多いまちでもあります。

(2) 府立図書館があるまち

大阪府には、生涯学習時代のバリアフリー大型図書館である府立中央図書館と、ビジネス支援、大阪資料・古典籍中心の図書館である府立中之島図書館があります。前者は市内の荒本北に建てられており、平成26(2014)年3月末現在、一般書180.2万冊、児童書15.4万冊、合計195.6万冊を持つ大型図書館です。

(3) 文学作家ゆかりのまち

本市には、平成8(1996)年に亡くなった作家の司馬遼太郎氏の記念館があります。司馬遼太郎記念館は、同氏の自宅と隣接地に立つ安藤忠雄氏設計の建物から成り、平成13(2001)年11月に開館しました。司馬遼太郎氏の約2万冊の蔵書が、高さ11メートル3層吹き抜けの大書架に並び、彼の精神を感じることができる資料館です。

大阪樟蔭女子大学小阪キャンパスの図書館内には、田辺聖子文学館があります。前身校の樟蔭女子専門学校国文科の卒業生であった田辺聖子氏の自筆原稿、作品、愛蔵品等のほか、428冊の蔵書、写真多数を所蔵しています。

2.2.公共図書館が市民のためにできること

公共図書館には、目立たないけれども、とても大切な役割・機能があります。本構想に おいては、特に次の役割を意識して、サービス向上等を推進します。

(1) 住民の情報格差を少なくします

公共図書館は、情報格差を正すための仕組みでもあります。病院に例えるなら、税金で運営される無料の病院、住民は誰でもそこで自分に合った治療(情報提供)を受けることができます。

情報格差とは、新聞を買わない人は新聞の情報が入ってこない、本を買わない人は本から情報を得ることができない、スマートフォンやパソコンを買わない、もしくは使えない人はインターネット上の情報を得ることができないということです。公共図書館は誰にでも無料で新聞や本、インターネットが使えるパソコンを提供し、情報格差を少な

くすることが出来ます。

(2) 市民を適切な情報提供によってサポート(ナビゲート)します

私達の身のまわりには情報があふれていますが、一方で、本当に必要な情報が届いていないことがあります。赤ちゃんと保護者を助けてくれる子育ての情報、子ども達の学校での学習をもっと豊かにする情報、卒業後の就職や進学の幅を広げてくれる情報、社会人にとって自分の可能性を拡げキャリアアップにつながる学習情報、ビジネスに役立つ情報、健康や老後のくらしに役立つ情報等です。

必要な時に適切な情報が得られれば、私達は複数の選択肢の中から、自分らしい人生を選択することができます。公共図書館はこういった選択を可能にすることができる情報を選別、収集、保存、提供することで、市民の生活をサポート(ナビゲート)します。

3. 図書館サービス網の整備方針

3.1. 基本的な考え方

(1) サービス網の現状

本市は市域が広いため、3 館 2 分室 1 移動図書館での図書館サービス網を使って、どの施設の蔵書も取り寄せて利用できるようになっています。

また、大阪市、八尾市、大東市など近隣 10 市と相互利用協定を締結し、10 市の図書館でも図書が借りられるようになっています。そのため、市境近くに住む市民や、市外に通勤・通学する市民は、近くの市の図書館を利用することができます。

本市の図書館にない資料については、購入によって追加するほかに、他市の図書館や府立図書館、あるいは国会図書館の資料を取り寄せ、市民に提供しています。

(2) 市民のニーズ

「市立図書館に関するアンケート(無作為抽出の市民約千人に平成 26 (2014) 年 7~8 月実施)」(以下、図書館アンケート)によると、回答者のうち本や雑誌をほとんど読まない方が約 4 割、読んでいる方でも半数以上は自ら購入して読んでいました。また、知りたいことを調べる際には、8 割の方がインターネット検索で、約 1/3 の方が本や雑誌を購入して調べていました。

このことから、インターネットが市民の情報入手の中心となっており、本や雑誌を読まない方がかなりの割合を占めるまでに至っていることがわかりました。しかし図書館は、このような時代とニーズを踏まえつつ、インターネット上の情報よりも正確で、信頼性の高い情報を提供するために、選び抜かれた本や雑誌を提供します。更に、市民が本に慣れ親しむために、様々な機会・場所等を通じて、身近に本を利用できる環境が整うよう、図書館サービス網を整備していくことが望まれます。

(3) 今後のあり方

少子高齢化の進展等により、本市の行財政も今後益々厳しさが見込まれます。そこで他の行政分野と同様、図書館サービス網についても費用対効果の改善が求められます。 そこで本市では、「東大阪市が持っている資源を最大限に有効活用し、大きな費用をかけずに、市民が求める資料や情報を身近で提供すること」を基本的な方針とします。 具体的には、次のような手法で取組みます。

3.2. 既存施設の活用

市内には市立図書館(3 館 2 分室 1 移動図書館)以外にも、市民が本に触れられる施設やサービスがあります。これら施設やサービスとの連携・活用を進め、市民に本を届けます。また、併せて、現在、蔵書の半数以下しか開架できていない市立図書館の開架スペース不足を、次の(1)~(3)により補います。それにより、利用者が自由に見ることができる蔵書の数を増やせるようになります。

(1) 市立の小中学校

小・中学校には学校図書館が設置されていますが、規模的に蔵書数や種類には限界があります。市内の小中学生が、より多くの本に身近で触れられるよう、学校図書館で市立図書館の本が利用できる仕組みを作ります。

詳細は後述します。

(2) リージョンセンター・公民館等

地域住民が集うリージョンセンターの多くには、図書室あるいは図書コーナーが設置 されています。また、図書室のある公民館もあります。

しかしながら、リージョンセンターや公民館は、各地域の自主的な運営に任されているため、運営内容や運営体制が施設によって大きく異なっています。そのためこれら施設にある図書スペースのほとんどは十分に活用されていません。本の管理や、追加、貸出が行われていないため、市民はその場で置かれた本を読むだけの不便な状況にあります。

市民が、より多くの本を身近で利用できるように、市立図書館は各施設の運営主体と連携・調整し、図書スペースの改善に努めます。それとともに、身近なリージョンセンターでも市立図書館の本が利用できるように努めます。

(3) 団体貸出の強化

現在、図書館における個人への貸出は1回8冊まで、期間は2週間となっていますが、これとは別に団体へ貸し出す仕組みがあります。団体貸出といい、1回100冊まで、貸出期間は2ヶ月となっています。市内の団体が団体の活動に役立つ資料、メンバーが求める資料を団体貸出で借りることで、団体の拠点・施設等が「ミニ図書室」となります。多くの団体がこの仕組みを利用すれば、市内各地に多くの「ミニ図書室」ができます。現在は一部の学校や団体にしか利用されていませんが、例えば介護保険施設等でこの仕組みを利用頂ければ、図書館へ来るのが難しい市民が、より多くの本を身近で利用できるようになります。

図書館は今後、各種団体等へ団体貸出を紹介し、その効果的な使い方を提案し、利用促進を進めます。そうすることで市民はより身近な場所で、市立図書館の本が利用できるようになります。

(4) 府立図書館等

市内には府立図書館が立地しており、専門書等が充実しています。また、前述の様に 近隣 10 市の図書館の利用、他市の図書館や府立図書館・国会図書館の資料の取り寄せ による利用が可能となっています。更に、市内には多くの大学があるため、大学図書館 と協力することも考えられます。

市民が、より多くの本を身近に利用できるよう、近隣 10 市の図書館が利用できることや、市立図書館で府立図書館等の資料が利用できること、市民に公開されている大学図書館の情報などを周知していきます。

3.3. 他施設との複合機能化

市立図書館は、旭町図書館や永和図書館(暫定施設)を除き、基本的には図書館のみの 単機能の単独施設となっています。単独施設の場合、来館者は図書館利用者に限られます。 しかし、他の用事のついでに立ち寄る、あるいは他の用事と関連する情報を得るといった 来館形態が可能になれば、図書館に立ち寄る市民の増加が期待されます。単独施設であった旧永和図書館は、布施の商業施設内に移ったことで利用者が増えています。駅前という 利便性や開館時間等の影響もあるでしょうが、商業施設の利用者が図書館についでに立ち 寄ることも大きいと考えられます。全国的にも公共図書館の複合施設化が進んでいます。

以上を踏まえ、他の施設やサービスとの連携・複合機能化により、市民が身近で本を利用できる図書館サービス網の整備に取り組みます。

(1) 新東部地域図書館

「東大阪市公共施設再編整備計画」において、新東部地域図書館は、郷土博物館、埋蔵文化財センター及び市史史料室と共に新たな文化関係複合施設として再整備する計画となっています。

複合施設の整備にあたっては、次の点に留意することとします。

(i)合築施設と親和性の高い機能を備える

複合施設の利点は、前述の様に他の機能を目的に来た利用者の「ついで利用」が 期待できるだけでなく、複合化による他の機能と組み合わせたサービスが提供でき ることにあります。

計画では、新東部地域図書館は歴史系の施設とともに複合施設に入ります。例えば新東部地域図書館へ郷土資料を集約することで、合築される施設と親和性の高い機能を備えることになります。その結果、合同イベントを実施することや、利用者が関連する情報や資料を一か所で入手することができるようになります。

新東部地域図書館は、郷土博物館、埋蔵文化財センター及び市史史料室との共用スペースを検討するほか、イベントをはじめとする様々な形で協力し、本市の歴史をテーマに市民が交流する場を提供します。

(ii)必要なスペースの確保

現在の旭町図書館の抱える課題は、書架のスペース、利用者が資料を見るためのスペース、資料を保管するスペースが不足していることです。そこで、新東部地域図書館のリニューアルにより、この課題を解決し必要なスペースを確保する必要があります。

単機能の施設であれば、必要なスペースの確保は比較的容易ですが、複合化する場合、各施設の必要とするスペースを確保することが難しい場合があります。しかし、資料の閲覧や保存など図書館の基本機能に必要なスペースの確保は優先される必要があることから、例えば、事務室や会議室、給湯室、トイレ、閲覧室等を合築される施設で共有することによってスペースを節約する等、設計・建設を担う事業者と知恵を出し合い、必要なスペースの確保に努めます。

(2) 新永和図書館

「東大阪市公共施設再編整備計画」では、新永和図書館については、河内永和駅前と

いう立地の良さを活かし、民間施設等(例えば商業施設やオフィス等)を誘致し、その一部に図書館を整備する計画となっています。

民間施設等との複合化においても、(1)と同様、親和性の高い機能(例えばオフィスとの複合化であれば、事業所向けのビジネス支援サービスを提供する等)や、必要なスペースの確保に留意します。

本市は、中小企業が集積している「ものづくりのまち」であり、特に新永和図書館の 北方に広がる高井田地域は、技術力に優れた多くの町工場が集積しています。市立図書 館は、ものづくりのまちを支える情報提供に努めます。

3.4. 移動図書館

現在、移動図書館は、市内 46 か所のステーションを月 2 回巡回しています。なかには利用者が少ないステーションもありますが、市民の身近に本を届ける貴重なサービスを担っています。

しかし、現状では移動図書館の運用は市立図書館における負担が大きいことから、移動図書館に代わる新たなサービスを模索しています。例えば、郵送・宅配による貸出・返却サービスの導入や、ルート上の施設・団体等への団体貸出などを今後検討していきます。

3.5. 街角図書館の普及促進

市民の生活動線上に、身近で本が利用できる機会を提供するためには、能力・資源的に限られる市立図書館から、既存施設の活用等、さらなる広がりが求められます。

これまでにも駅や病院、公民館等に施設管理者が本棚を設置し、自由に利用してもらう 私設図書館の取組みがありました。また、本市では「家庭・地域文庫」として、図書館所 蔵の本も併せて提供している私設図書館が12文庫あります。

近年では、全国的な動きとして、自宅やオフィス、カフェ等の店舗、寺社や病院等に設けた本棚や、トラックに載せられた本棚によるライブラリー活動を通じ、子どもを育む環境づくりや、地域の活性化、人々の交流の促進等に取り組む個人や組織等が増えてきています。

本市においても、公共サービスを補完するこうした取組みを市内で盛り上げ、多くの市民が身近で本に触れ、交流する場を増やすことを目指します。

3.6. 中央館的機能の確保

図書館サービス網は、3 館 2 分室 1 移動図書館の市立図書館網に加え、3.2~3.5 に示したような様々な手法によるサービス網の拡充により、費用をおさえつつ、多くの市民が身近で本を利用できるよう、様々な取組みを行います。これら多様な施設等で構成されるサービス網の整備には、機能面あるいは管理運営面において、その要となる中央館的機能を持つ図書館が今後必要となります。

そのため、サービス網の整備と併せて、市立図書館のいずれかに中央館的機能を確保します。

4. 図書館サービスの整備方針

3 で述べたように今後、市立図書館は図書館サービス網の整備を行い、整備されたサービス網を最大限に活用しつつ、図書館サービスを展開していきます。

図書館は、資料の収集・貸出等の基本的なサービスを充実させていくことに加え、社会環境等の変化やそれに伴う市民ニーズの多様化も対応しなければなりません。そのような変化に対応した図書館サービスが、全国各地で提供されつつあります。

そこで図書館は、それら多様なサービスの中でも、本市に合った特色あるサービスを選択し、提供していきます。

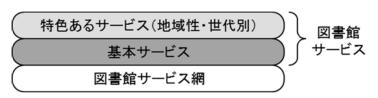


図1 図書館サービス網と図書館サービス

4.1. 基本サービス

従前からの基本的な図書館サービスの核は、資料を収集し、閲覧や貸出によって市民に 提供することです。この核となるサービスを更に充実していくとともに、より多くの市民 の図書館利用を支援・促進することができる、利便性の高いサービスの充実が重要です。

(1) 資料収集・収蔵

図書館アンケートによると、図書館で今後充実・強化すべきサービスとして、最も多くの方(37.6%)が「本の種類・数を増やす」を要望されました。

実態としても、人口当たりの蔵書数は1.48と府下33市中31位(平成23(2011)年度)と下位にあり、他市に比べ蔵書数が少ない状況にあります。蔵書数が少ないことが、人口当たりの貸出冊数(平成23(2011)年度で4.06、府下33市中29位)が低い原因とも考えられることから、今後は蔵書を質的・量的に充実させていく方向で取組みます。

なお、資料収集・収蔵の充実にあたっては、次の点に留意することとします。

(i)資料の質的な充実

資料の充実には、数値に現れやすい量的な面にとらわれがちですが、ただ冊数を 増やせばよいということではなく、質的な充実も伴う必要があります。

図書館アンケートでは、半数弱と圧倒的に多くの方が、今後充実すべき資料を「新刊書」と回答されました。現在図書館でよく読まれた本・予約された本は話題の小説が多く、また貸出実績でも文学が4割超と最も多い状況です。つまり市民が求めている資料は新刊の小説ということになります。

一方、児童書の貸出実績では、絵本と芸術(主に漫画類)が各 1/3 ずつと利用が偏っており、調べ学習のための本や物語の本などはあまり利用されていません。

図書館の書棚は市民に多様な読書を提案する場でもあります。選び抜かれた本は、市民の読書や調査への欲求を刺激します。現在の利用状況が書架の状態を反映した

ものであるならば、今後市立図書館は、漫画や新刊小説以外の資料も積極的に集め、 市民にその利用を、書架を通して提案していきます。例えば市民の調査研究や課題 解決などに役立つ資料や情報を収集・提供していくことで、市民が持っている図書 館のイメージを変え、利用の仕方を広げていくよう、質的な改善・充実を図ってい く必要があります。

(ii)開架スペース・書庫の拡充

3 館中 2 館において再整備が計画されています。再整備に当たっては、基本となる蔵書の充実を実現できる開架スペースや書庫スペースの確保に努めます。

(iii)配架場所の分散化

資料の増加には保管場所の裏付けが必要となりますが、各館ともに書庫のスペースも十分でない状況です。にもかかわらず、図書館は毎年約4万冊ずつ蔵書を増やしています。

そこで、団体貸出の利用を増やし、学校図書館やリージョンセンターへの配架、 家庭・地域文庫への貸し出しを増やすことで、市立図書館の蔵書の分散配置を進め ます。市内各地への資料の分散配置によって、市民の身近に本を置きつつ、資料の 配架・収容能力の実質的な拡大に努めます。

(iv) 寄贈による量的な充実

図書館の年間の資料費は毎年 6,400 万円程度で横ばいの状態が続いています。その一方で、市民の中には、本を自宅に多数抱え困っている方も少なくないようです。 図書館等へ寄贈や古書店への売却を考えつつも、その方法がわからず、処分に困っているといいます。

図書館は現在も、市民からの本の寄贈を受け入れています。しかし図書館はその目的とスペースの制約から、どのような本でも受け入れ、すべて配架するのは困難なため、寄贈していただいた本は、新刊本や希少本等を中心に配架しています。

今後は、配架できない本は個人や組織等が運営する図書館・文庫等にお譲りして 積極的に活用していただきます。市民からの寄贈本を有効に活用することで、資料 費を抑えつつ、市全体としての資料の充実・活用促進を図ります。

(v)計画的・効率的な実施

(i)~(iv)の実施にあたっては、資料の増加ペースと、配架、保管するためのスペースを把握し、今後の見通しを立て、図書館として必要と考えられる資料を計画的に収集・保管していきます。

(2) 閲覧・貸出・予約・レファレンス等

市立図書館の資料を充実しても、それらが多くの市民に利用(閲覧・貸出等)されなければ意味がありません。

前述の様に、本市では、本や雑誌を読まない人が多く、また読んでいる人の多くは書店等で購入しています。図書館を利用する市民は1割弱ですが、一方で、図書館をよく利用する方の多くは年間に多くの資料を借りています。

このような状況から、市立図書館には、より多くの市民の利用を支援・促進する利便性の高いサービスの充実が必要と考えられます。そこで、次のような取組みを進めます。

(i)閲覧環境の改善

図書館アンケートでは、図書館利用者の 2/3 は資料を借りに来ていますが、「本・雑誌を読む」人も多く (1/3 強)、読んでから借りる人や、読むだけの人が少なくないことがわかりました。また、今後充実・強化すべきサービスの第 4 位 (回答者の 1/5 強) には「閲覧席 (席数、スペースの広さ)」が挙がっています。

3 館 2 分室の延床面積は 4517.95 ㎡ですが、狭いスペースの中により多くの書架 を置き、本を並べることが優先されているため、利用者がゆったりと本を読めるスペースは、ほとんどありません。

既に述べたように、既存施設の活用や団体貸出の増加、街角図書館等の普及促進などにより、市内の閲覧場所・面積を広げます。それとともに、2館の再整備により開架・閲覧スペースの十分な広さの確保に努めます。

(ii)貸出・返却機会の拡充

図書館アンケートでは、今後充実・強化すべきサービスの第6位に「館外での貸出・返却」、第7位に「返却用ポストの増加」が挙がっています(それぞれ回答者の1/5弱)。この回答は、現在図書館を利用していない人の方によるものが多いことから、貸出・返却がより容易になると、今後利用が増える可能性があります。

これを踏まえ、図書館サービス網の拡充により市立図書館以外の施設等においても貸出・返却を可能とするなど、貸出・返却機会の拡充を検討します。

(iii)開館時間の改善

図書館アンケートでは、今後充実・強化すべきサービスの第2位(回答者の1/4強)に「開館時間の延長」が挙がっており、特に永和図書館の利用者にそのニーズが他館よりも高い傾向があります。

「開館時間の延長」は特色ある図書館づくりの上で、各館の利用実態も踏まえて 実施する必要があります。

また、現在は週2日のみの開館となっている分室の開館時間、あるいは開館曜日 を増やすことを検討していく必要があります。

(iv) レファレンスサービスの充実

本に慣れ親しみ、利用を促進していくためには、レファレンスサービスの充実と 図書館員からの来館者等への積極的な支援が必要になります。そこで、そのような 積極的なレファレンスサービスの提供が可能な業務体制を構築します。

4. 2. 特色あるサービス

社会環境等の変化に伴う市民ニーズの多様化等に対応するためには、4.1 に挙げた利用者の属性を特定しない基本的なサービスに加え、本市の地域性を活かしたサービスと、特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービスを提供していく必要があります。

4. 2. 1. 地域性を活かしたサービス

本市の地域性を活かしたサービスとは、東大阪らしさを前面に出し、その文化資源等を活用するサービスです。例えば東大阪は、文学作家ゆかりのまちであり、「聖地」花

園を擁するラグビーのまちでもあります。こうした地域性を活かしたサービスにより、 市民はもとより市外にも東大阪を広く PR し、注目と関心を集めることが必要です。

現在、市民の大半は図書館を利用していません。図書館を通じて東大阪の魅力を再認識することで、市民が生活の中に図書館を取り込むきっかけとなることを目指します。

東大阪ゆかりの文学作家としては、司馬遼太郎氏、田辺聖子氏らが著名です。両氏とも全国的な知名度と幅広い年齢層のファンを持ち、こうした作家ゆかりのイベントの実施は、「文化に親しめるまち」、「いくつになっても学べるまち」づくりにも役立つものと考えられます。

また、花園ラグビー場を擁し、ラグビー2019 (平成31) 年ワールドカップ (W杯) 日本大会の会場の一つにも選ばれた「ラグビーのまち」を活かしたサービスの提供も求められます。ラグビーに親しむ市民をはじめ内外のラグビーファンが閲覧・利用できるよう、ラグビーに関する蔵書のコレクションを充実、ラグビーを楽しむ人々に有用な情報提供を行うなど、図書館がスポーツを様々な面からサポートすることも必要です。加えて、「ラグビーのまち 東大阪」の記録や資料を収集、保存し、後世に伝えていくことは、図書館が郷土史や地域情報を継承するという大切な役割を果たすことにもつながります。

4.2.2.特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービス

従来の全市民向けの基本的な図書館サービスではなく、それぞれの属性・ニーズに特化した新しいサービスを提供することは、図書館が市民の生活に役立つ情報拠点としての機能を発揮し、図書館利用者の拡大や、市民が本に触れる機会の拡大に繋がる可能性があります。

このようなサービスには、属性やニーズの違いにより様々なサービスが考えられます。 本構想では2.2に示した、適切な情報提供により市民を生涯に渡ってサポート(ナビゲート)する役割を果たすことを重視し、赤ちゃんからお年寄りまで、その時々で本当に必要な情報を提供するサービスを目指します。これらのサービスを通じ、この街に暮らす市民一人ひとりが自分らしく生きるために必要な情報を手に入れ、情報社会が市民にもたらす豊かさを受け取りつつ、自分らしい人生を築いていけるようにします。

乳児期~幼児期	①ブックスタートから始まる、図書館とのおつきあい
学齢期	②学校図書館の充実を支え、より豊かな学校教育を
社会人	③キャリアアップ!学びたい、もう1度働きたい私にチャンスを ④ビジネスに役立つ情報収集!図書館は私のビジネスパートナー
高齢者・障害者等	⑤図書館はどなたの心にも寄り添う情報拠点

表 1 特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービス

なお、特色あるサービスの提供には、施設・設備等のハード面や、特定の属性・ニーズに十分応えられるような専門性・スキル等が求められます。そこで、本市の図書館が複数館を展開しているメリットを活かし、それぞれの館で異なる特色・専門性を持ったサービスに特化し、各館が特色のあるサービス拠点になることを目指します。市民はその時々に必要とする情報やサービスに応じて、市内の各館を選んで利用します。

(1) 乳児期~幼児期:ブックスタートから始まる、図書館とのおつきあい

(i)ブックスタート:赤ちゃんとお母さんの図書館はじめ

平成 25(2013)年 8 月、本市で赤ちゃんと絵本を通じてふれあう、ブックスタートが始まりました。4 か月児健診に訪れた赤ちゃんとその保護者に、絵本を通した親子のふれあいを伝える事業です。

ブックスタートとは、平成 4(1992)年にイギリスで始まった取組みで、親子が絵本を通じてお互いの肌の温もりを感じながら、楽しいひとときを共有し、親子がふれあう「親と子の本の時間」を応援するものです。赤ちゃんが絵本に反応を示し始める生後 4~6 か月頃から、赤ちゃんとその保護者に親子で絵本を楽しむ時間の大切さを伝えたり、育児に悩む保護者の話を聞いたりします。

ブックスタートには、市立花園図書館で行われた「ブックスタート研修会」に参加したボランティアが担当として参加しています。4 か月児健診に訪れた親子を対象に、絵本と子育てに関するパンフレット、そして市立図書館の利用案内等を手渡し、絵本の読み聞かせや、保護者に子どもとの接し方のアドバイスをしています。ブックスタートをきっかけに赤ちゃんを連れてお出かけできる場所の一つに図書館が加わると、赤ちゃんは図書館のおはなし会を楽しんだり、絵本を借りて貰ったりすることができます。

(ii)上記イメージの実現に向けた子育て支援サービスの展開

図書館アンケートの結果から、今後充実・強化すべきサービスとして「子育てに 関する情報提供」は、特に30代の家事専業の女性のニーズが高く、同時に「絵本・ 児童書」の充実も求めています。

また現在子育で中の市民約400人(保育所や子育で支援センター利用者)を対象に行った「図書館の子育で支援サービスに関するアンケート」(平成26(2014)年6月実施)(以下、子育で支援アンケート)の結果によると、図書館で子育で支援サービスが提供されれば98%の方が利用したいと考えていました。

更に現在の図書館では、児童書のうち最も貸出実績が高いのが絵本であり、乳幼児(とその保護者)の利用が少なくないことがうかがえます。

全国的に人口減少社会に突入し、人口の維持に向けた次世代の育成支援が重要施策となっているなかで、本市行政においても様々な子育て支援策を展開しています。しかしながら、子育て支援アンケートでは、回答者が利用している市の子育て支援サービスは、子育て支援センターやつどいの広場のような親子で集える場が最も多く(45.5%)、次が保育所(園)・幼稚園の園庭開放(25.2%)、3番目が子育て支援センターや保育所での相談(11.8%)で、全く利用していない回答者も多い(26.7%)状況です。図書館は図書や雑誌による育児情報とともに、本市が行っている子育て支援に関する情報を発信することもできます。しかも休日も開館しているため、子育ての場の一つとして市民に貢献できる余地が大きくあります。

そこで子育て中の市民に向けたサービスとして、ブックスタートや読み聞かせなど従来行ってきた乳幼児が本に親しむためのサービスに加え、子育てに関する様々な情報提供や子育て中の市民の交流の場となるサービス提供に努めます。

(2) 学齢期:学校図書館の充実を支え、より豊かな学校教育を

平成 26(2014)年 6 月、学校図書館法が改正され、専ら学校図書館の職務に従事する職員を学校司書として位置付け、これを学校に置くよう努めることなどが定められました。学校には司書教諭の他に学校司書を置くよう努めること、学校司書の資質の向上を図るため研修の実施その他の必要な措置を講ずるよう努めることとされています。その附則において、平成 27(2015)年度から学校司書を置くよう努めることが定められました。平成 24(2012)年 5 月現在、学校司書は全国の小学校 9,612 校(47.8%)、中学校 5,056 校(46.2%)、高校 3,387 校(67.7%)に配置されています。

本市においても学校司書の配置を計画しています。

市立図書館は学校(学校図書館や学級文庫)に資料を貸し出すことができ、図書館員はその知識で、子ども達に必要な資料を選ぶこともできます。市内の全ての学校に学校司書が配置され、必要な資料が揃うまでには時間がかかります。このため市立図書館はその責務として学校司書の全校配置が完了するまで、学校図書館をサポートします。

市立図書館は、学校図書館を支援することで、本市の教育の質を向上させ、教育条件を整えることができます。つまり市立図書館による学校図書館のサポートは、本市の「市民文化を育むまちづくり」における「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまち」を実現するための重要な施策と言えます。

(3) 社会人

(i)キャリアアップ!学びたい、もう1度働きたい私にチャンスを

学生の頃には必要だと思わなかった知識や技術が、社会人になってから必要となることは珍しくありません。更に新たな知識や技術を学びながら仕事の質を高めていくことも必要です。そのような時、働きながら学ぶために図書館を活用することができます。

出産や育児のために仕事を辞め、子どもがある程度大きくなったので再就職したいという女性も、社会復帰のために学びたいと考えています。病気や家族の介護等で仕事を辞め、数年後に再就職を目指す人たちも同様です。しばらく仕事をしていなかった期間がある人達にとって、最新の情報を仕入れ、新しい知識や技術を身につけることは再就職のために不可欠です。新たに資格を取りたい場合の情報収集や学習にも図書館は役立ちます。

まず、図書館は多くの本や雑誌を提供することで、社会人の学びを支援します。 利用者は本を読むことで、ビジネスマナーや、パソコンを使った文書作成やプレゼンテーションの方法を学ぶことも、経営学や会計学を学ぶこともできます。仕事に必要な資格試験の勉強をすることもできます。同様に、雑誌や新聞を読んで最新の知識や情報を仕入れ、専門雑誌から仕事に必要な情報を集めることもできます。

次に、図書館は社会人が学ぶ機会や場所に関する情報を収集・提供することができます。本市には近畿大学、大阪商業大学、大阪樟蔭女子大学、東大阪大学(短期大学)、樟蔭東短期大学の4つの大学と1つの短期大学があり、これらの大学は社会貢献のために公開講座や図書館の一般公開を行っています。大学図書館は教育と研究のための図書館であり公共図書館より多くの専門書や専門雑誌を揃えています。学生のための入門書も多いので、社会人の学習には最適です。また、生涯学習推進のため社会人等が大学・大学院の授業を履修し正規の単位を修得できる科目等

履修生制度や通信教育も行っています。

しかし、現状ではこのような有益な情報が、市立図書館で十分に収集・提供されていません。大学のまち東大阪に暮らすメリットを市民が享受できるよう、市立図書館は大学の発信する情報を積極的に収集し、市民の学びに役立つ情報を提供するよう努めます。それは、本市の「市民文化を育むまちづくり」における「文化に親しめるまち」を実現するための重要な施策となります。更に生涯学習に関する情報提供であることから「いくつになっても学べるまち」づくりにも役立ちます。

(ii) ビジネスに役立つ情報収集!図書館は私のビジネスパートナー

「市立図書館に関するアンケート」の結果によると、50 代の男性会社員・公務員は、今後充実・強化すべきサービスとして「ビジネスに関する情報提供」を求めています。

また本市在住で現在働いている方約500人(インターネットリサーチ会社のモニター)を対象に行った「図書館のビジネス支援サービスに関するアンケート」(平成26(2014)年6月実施)(以下、ビジネス支援アンケート)の結果によると、図書館でビジネス支援サービスが提供されれば8割超の方が利用したいと考えていました。

これを踏まえ図書館は今後市民に対し、仕事に必要な資料や情報等を提供するサービスを始めます。ビジネスに関する資料と各種データベースを提供するほか、他の図書館・情報源とも連携して市民が求める情報や資料の提供に努めます。更にビジネス情報活用のための講習会を行い、総合的な支援サービスの提供に努めます。

(4) 高齢者・障害者等:図書館はどなたの心にも寄り添う情報拠点

高齢者の方には目に優しい大活字本の充実、障害者の方には点字資料やデイジー*図書の拡充を図ります。デイジー図書は、現在市内のボランティア団体で作成していただいていることから、その支援の充実を図ります。

併せて、それら資料の存在をアピールし、市民に幅広く利用していただけるよう、図書館のコンピュータ目録に登録し、検索・予約が容易にできるようにします。それと共に、音声データ(録音図書)の作成や利用に関する案内や支援の重視を図ります。また図書館への来館が難しい障害者や高齢者のために、施設への団体貸出や、出張貸出・朗読、宅配等のサービスも検討します。

更に、市民が、より多くの本を利用できるように、身近なリージョンセンターでも市立図書館の本が利用できるように努めます。

本市は多様な高齢介護サービスを行っています。そのサービスに関する情報を市立図書館で紹介することも大切な役割です。特に介護保険に関する情報などは、誰しも本当に必要となるまでじっくりと見たことがないということも多いのではないかと思われます。高齢者自身は当然のこと、高齢者を支える家族のためにも、高齢者向けの公共サービスの情報は、いざという時には図書館に駈け込めば見られるように、パンフレット

_

^{**} デイジー(DAISY)は Digital Accessible Information SYstem の略で「アクセシブルな情報システム」と訳されています。視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のためにカセットに代わるデジタル録音図書の国際標準規格として、50カ国以上の会員団体で構成する DAISY コンソーシアム(本部スイス)により開発・維持される情報システム。同コンソーシアム公認のオーサリングツールで作成されたデジタル図書は、専用機やパソコン(ソフトウェアをインストール)で再生します。国内では、点字図書館や一部の公共図書館、ボランティアグループ等で DAISY 録音図書が製作され CD-ROM で貸し出されています。

など一通り揃えておく必要があります。

公共サービスの情報と併せて、それに関連する資料や情報も一緒に提供します。高齢者向けの健康づくりや食生活の講座を市が行うなら、もう少し知りたい、その日は参加できなかったが知りたいという人のために、そういった本や雑誌・新聞記事を提供します。新聞の家庭欄などには関連する記事が多いうえ、短くまとまっており、写真や図形も多く、わかりやすく書かれていることから、テーマ別の切り抜きのファイルの提供や、講座での配布資料の収集・提供にも努めます。

あわせて、市内・近隣の病院や介護施設などについても情報の提供に努めます。

また、市の進める「協働のまちづくり」の担い手として期待される様々な地域の団体や、シルバー人材センターや老人クラブなど高齢者の参加を待っている団体の情報や、高齢者の関心が高いイベントの情報などを収集し提供に努めます。

更には、こうしたサービスの提供そのものに、高齢者等が自らの知識や技能、経験を 活かして参画し協働することができるような図書館ボランティアの養成について検討 します。

4.3. 情報発信 • PR 等の強化

図書館アンケートでは半数弱の市民が図書館を利用していないことがわかりました。 本・雑誌を読まずにインターネットで情報を入手している方が多く、本・雑誌を読んでいる方でも自分で購入している方が多いことも影響しています。

本・雑誌を読む習慣があり、自ら購入して読んでいる方には、様々な理由・事情等により購入できない(あるいは購入するまではない)書籍等の提供といった補完的なサービスが主となります。そのような習慣のない方々には、まず図書館に親しみを持って頂くためのサービスが求められます。しかしながらそれ以前に、図書館がどこで、どのようなサービスを行っているかを知っている方が多くはないことが問題です。そこで、3 や 4 に掲げた取組を行う際には、既存のサービスも含め、Facebook(フェイスブック)など様々な媒体を活用し情報発信、PRを強化する必要があります。

少なくとも、図書館ホームページにおいて、3 や 4 に掲げた今後取り組むサービスの一覧や各サービスの詳細等を示していくと共に、パンフレット・ポスター等の公共施設等への配置、広報への定期的な情報発信等、積極的な PR に努めます。

5. 実施スケジュール

3 及び 4 に示した各取組は、「東大阪市公共施設再編整備計画」等他の計画のスケジュールと整合を図りつつ、次のようなスケジュールで推進していきます。

H27 H30 H32 H33 H28 H29 H31 市立小中学校 準備•調整 実施可能校に順次拡大 リージョンセン 既存施 準備・調整 実施可能センター等に順次拡大 ター・公民館等 設の活 団体貸出の強 団体等への継続的な PR、団体結成の促進等 用 化 図書館サ 府立図書館等 継続的な PR、利用相談時の積極的な案内等 新東部地域図 仮移転 基本 民間事業者による 手法 提案 ĺ 計画 検討 設計•工事 工事 募集 他施設 書館 -ビス網 との複 新永和図書館 検討 解体 解体 設計 工事 合機能 民間事業者による 化 提案 設計·工事 募集 街角図書館の普及促進 準備•調整 PR•順次拡大 資料の質的な充実 継続的に実施 開架スペース・書 設計等への反映 新東部 新永和 庫の拡充 配架場所の分散化 学校・リージョンセンター・団体等へ順次分散・拡大 基 本サ 寄贈による量的な 継続的に実施・PR 計画的・効率的な 計画策定 実施 図書館サー 閲覧環境の改善 図書館サービス網の順次拡大に伴い、順次改善 貸出・返却機会の サービス検討 図書館サービス網の順次拡大に伴い、順次改善 拡充 ービス 到児期~幼児期 準備 設計等への反映 順次実施 特 学齢期 実施可能校に順次拡大 準備・調整 色 ーあるサ 社会人 設計等への反映 準備 順次実施 サービス 準備•調整 実施 ・ビス 情報 リージョン 拠点 準備 調整 実施可能施設に順次拡大 等活用 情報発信・PR 等の強化 継続的に実施

表2 図書館サービス網と図書館サービスの整備に向けた実施スケジュール

第2章 個別サービス構想

本章では、第 1 章 4.2.2(1) \sim (3) に整理した特色あるサービスのなかでも、今回特に力を入れている 3 つのサービスの実現に必要な機能・設備等について具体的に整理します。

4.2.2(1) 乳児期~幼児期 ⇒ 1. 子育て支援サービス

4. 2. 2(2) 学齢期 ⇒ 2. 学校連携

4.2.2(3)社会人 ⇒ 3. ビジネス支援サービス

1. 子育て支援サービス

1.1. 必要機能(提供サービス)

子育て支援アンケートによると、本市で子育てに携わっている方(保育所利用者、子育て支援センター利用者が半々)の約3割が図書館を利用しておらず(就労の有無に偏り無し)、1/4強(殆どが就労中の方)が市の子育て支援サービスを利用していませんが、図書館で子育て支援サービスが提供されれば、98%の方が利用したいと答えています。

そこで、子育て支援アンケートにより子育て中の市民の要望の多かった、育児情報の提供や、子どもが楽しめる各種プログラム等の実施等により、これまであまり市立図書館を利用していない層や、就労中のため市の子育て支援サービスを利用していない層をはじめとする、より多くの市民に役立つ市立図書館を目指します。

なお、子育て支援センターやファミリーサポートセンター等市の提供する様々な子育て 支援サービスが既に提供されていることから、それらと重複するのではなく、それらと連 携し適切な役割分担・補完関係を確立することにより、本を媒介とする図書館ならではの サービスを中心に提供することとします。

(1) 各種プログラムの実施

子育て支援アンケートにおいて、希望者数が最も多かったサービスは「講座・レクリエーション」(回答者の84%)、次に多かったサービスは「乳幼児向けお話会」(同79.8%)でした。そこで、これらのプログラムを定期的に実施します。

「乳幼児への図書館サービスガイドライン」*のチェックリスト(評価基準)では「年齢にふさわしいプログラムや活動を、利用者の多様なスケジュールに合わせて日に複数回、週に数日の割で実施すること」とされています。この基準も考慮しつつ、実際のニーズに応じた頻度での実施を目指します。

(i)レクリエーション

上記ガイドラインにおいて、図書館は、子どもの発達のごく初期段階において話す・聞く・読む等の言語能力を習得・強化するため、乳幼児の探究心・感覚・読み書きのニーズを満たすようなサービスをいつでも利用・提供できることが求められています。具体的には、音楽や体を使った遊び、創作劇、家事や簡単な科学・社会体験等に関する親と保育者のための研修機会や「作って遊ぼう」等のワークショッ

^{**} 国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会編(2007年)、日本図書館協会児童青少年委員会訳(2009年)

プ等の開催が挙げられています。

これを踏まえ、絵画・工作・歌・手遊び・体操等を親子で楽しみ・学ぶプログラムを定期的に開催します。

(ii)乳幼児向けお話会

わらべ歌(童謡)や子守歌、絵本やストーリーテリングは、幼い子どもたちの言語・読解能力の発達を支援する効果的な手段です。なかでも、特に絵本等の読み聞かせは重要なことから、本市では既に3館2分室で定期的に実施しています。

今後、子育て支援サービスに注力する館では、年齢層別に(特に、現在実施が難 しい乳児等低年齢層向け)、かつ高頻度での開催を目指します。

(2) 専用スペースの設置

子育て支援アンケートにおいて、希望者数が3番目に多かったサービスは「おもちゃを置いた遊び場の設置」(回答者の77.5%)でした。

(1)の結果も含め、子連れで来館する利用者が気兼ねなく利用できる、子どもが楽しめる場所が求められていることがうかがえます。これらを踏まえ、子ども向けの専用スペースを設けます。

(3) 子育ての助けになる資料・情報等の収集・集約

子育て支援アンケートにおいて、希望者数が4番目、5番目に多かったサービスは「専門図書・資料の収集強化」「市内の子育で情報の配布」(回答者の各7割前後)でした。また、充実すべき情報として、子どもの体や発育(同57.1%)、食事(同48.6%)、アレルギー・予防接種(同46.7%)、しつけ・世話(同42.9%)、ケガ・病への対処(同39.2%)、妊娠・出産(同38.2%)、外出・遊び(同29%)、保育・預かりサービス(同26.7%)が、多くの方から望まれています。

この結果を踏まえ、子育ての助けになる資料・情報等として、育児に関する専門図書・資料と市内の子育で情報を中心に収集を強化します。同時に3館2分室に散在する既存の資料を集約し、児童書の書架や(2)のスペースに近接した専用コーナーに配架します。 資料・情報等は、非売品である地域のミニコミ誌等のフリーペーパーや子育でサークル・団体等のチラシ類、更に子育で卒業者からの寄贈資料など関係者の協力を得ながら幅広く収集します。

また、資料・情報等のうち、保健・医療分野など常に新しい知見が出るものや、定期 刊行物については、更新・入替え等による鮮度の保持に十分注意することとします。

(4) 情報収集等の支援

専用コーナーの豊富な資料・情報の使い方を案内する等、利用者の情報収集を支援します。

(i)レファレンス

利用者が望む資料・情報について、対面で相談・支援を行います。

(ii)保護者向け講習会

(1)の各種プログラムは、単に親子で参加して楽しむだけではなく、両親や保育

者が、子どもの年齢に合った資料の選び方や付き合い方、子どもの言語・読解能力の発達における読書・読み聞かせの重要性、読み聞かせの実践方法などを学ぶ場でもあります。そこで(1)の各種プログラムを活用した資料・情報等の活用法の講習会を実施します。

例えば「絵本の楽しみ方」「胎教によい音楽」「食育」「ほめ方・叱り方」などのテーマで専門コーナーを設け、各種資料・情報の基本的な使い方についての講習会を定期的に開催します。また、テーマの中にはインターネットを使って自宅で最新情報を収集できるものも多いことから、インターネットを使った子育て支援コンテンツの使い方や、正確な情報を入手するためのコツ、利用者が便利に感じる(気になる)ハウツーについても講習します。

(5) 専門機関と連携したサービス

市立図書館は、庁内(子どもすこやか部)をはじめ、子育て支援センターや保健センター、家庭児童相談室等の子育て支援関連の専門機関と連携します。市民が必要な資料・情報等を専用コーナーにて提供するほか、次のようなサービスの提供に努めます。

(i)専門職・機関等への相談取り次ぎ

子育て支援アンケートでは、専門職員による図書館での相談サービスに対して、ある程度(半数弱)のニーズがありました。また、就労中の保護者は平日が中心の市の子育て支援サービスは利用困難なことからも、休日も開館している図書館でのサービスは魅力的であると考えられます。

図書館は、子育てについて専門的な相談を必要とする利用者に、これら関係機関の専門家への取り次ぎを行い、すみやかに相談が受けられるよう支援します。

(ii)出張相談会・イベント等

専門機関が平日に実施している相談会やイベントを、図書館内にて定期的(特に 土日等の休日)に出張して開催してもらうことで、平日に専門機関に行くのが難し い保護者を支援します。

(6) 休日サービスの柔軟な導入

子育て支援アンケートでは、子育て支援サービスの利用を希望する時間帯は「平日午前」と「休日午前」「休日午後(12~16 時台)」の群に大きく分かれました。この内訳をみると、就労されていない方は「平日午前」に、就労されている方は「休日午前」「休日午後(12~16 時台)」に偏っており、就労の有無により利用したい時間が異なっています。

また、子育て支援アンケートでは、就労されている方が、市の子育て支援サービスを 十分利用できていないことから、特に(1)や(4)のサービスについては休日の開催に努め ます。休日開催の時期や頻度は、試行錯誤しながら調整しています。

なお、休日開催においては、運営体制が課題となることから、連携先の専門機関と調整し、最大限対応できるように努めます。

1.2. 施設等構成

1.1 に挙げたサービスの実現のため、特別に整備が必要な設備等は以下の様になります。 なお、以下は通常の一般図書サービスに併設される場合の施設・設備等に絞って列挙していますので、子育て支援単独(子育て支援図書館単館)での設置の場合は、下記の他に 事務室や書庫、機械室や廊下・階段等の諸施設・設備が別途必要になります。

(1) 乳幼児・親や保育者向けの設備・対応等

まず、主なサービス対象者にとって、図書館が安全でバリアフリーな場所となるための設備・対応等が必要となります。

- ●ベビーカーごと乗れるエレベータや自動ドアといったアクセスを良くする設備
- 重ったり、よちよち歩いたりする幼児には危険な段差等の解消
- 小さなトイレやおむつ交換台など乳幼児の世話に必要な衛生設備、給湯室(粉ミルク用)や授乳室を、児童エリアのごく近く(もしくは館内)に設置
- 閲覧席等の家具や書棚等の鋭利な角の防護(もしくは角のないものの整備)や、 電源コンセントへのカバー等の事故防止策の実施

(2) 施設

(i)専用スペース

専用スペースは、乳幼児の声が他の利用者の迷惑とならない(保護者等が気兼ねしない)よう、児童エリア内に間仕切りをして設置します。小さなトイレやおむつ交換台、授乳室とフロア続きにレイアウトされていることが理想となります。

子どもが遊んだり、転がって本を読んだりする他、保護者の休憩・読書、各種プログラムを実施する場として活用するため、靴を脱いで利用するようにします。清潔なカーペット敷きとし、入口にはベビーカー置き場と靴箱を配置し、スペース内には発育を促す清潔で安全なおもちゃ、子どもの体に合わせた家具を置きます。

(ii)研修室

1.1(4)(ii)に挙げた保護者向け講習会や、1.1(5)(ii)に挙げた出張イベントを実施する場として、20 席程度のテーブル席と、壁面にホワイトボードやスクリーン等が設置された部屋が必要となります。デザインは子連れでの利用を前提とした温かみのあるものが望まれます。

ただし、独自に研修室を確保する余裕がない場合は、共用することになります。

(iii)相談室

専門家・専門機関等と連携した出張相談や、専門家へ取り次いだ個別相談のための部屋が必要となります。

通常は、資料の探し方などの相談にのり、利用者の情報収集のお手伝いをするレファレンスサービスにも利用します。

(3) 子育ての助けになる資料・情報等の配架スペース

関係機関や団体等のパンフレット・チラシ・フリーペーパー類を収集・配架します。

(4) 担当要員の配置・確保

資料の選定・収集・入替えや、レファレンス、講習会の実施、専門の関係機関との連携等、専用コーナーを運営する職員が必要となります。このため、通常の司書としての知識やスキルに加え、子育て支援に関する十分な知識を有する職員を配置します。

特に各種プログラムの企画や実施においては、プログラムの内容や実施頻度によっては職員のみでの実施は困難です。そこで、スキルや経験のある市民(読み聞かせのボランティア等)の支援を受けることで、質・量共に充実したサービスの円滑な実施を図ります。

1.3. 実現に向けた課題

1.2 に挙げた施設・設備等の整備に向けては、次のような課題があり、一つ一つクリアしていく必要があります。

(1) 必要なスペースの確保

市立図書館はいずれの館・室も手狭で、十分な広さの確保が長年の重要課題となっています。今回、3館のうち1館を新築、1館がリニューアルの予定となっていることから、この2館にて子育て支援サービスを実施する場合は、資料の配架と閲覧に必要十分なスペースの確保を最優先した設計とする必要があります。

(2) 専用コーナーへの資料の集約

3 館 2 分室の開架及び書庫に散在する関係資料から、今回専用コーナーに集約する資料の選別、古く陳腐化した資料の除籍及び処分、新たに収集する資料の選定、それら資料の配置など、資料収集・集約・配架のために多くの準備作業が必要となります。

(3) 3 館 2 分室との役割分担の整理

(2)に挙げたように、子育て関係の資料や情報は、新規に収集するものばかりではなく、今も多くの資料や情報が3館2分室の開架および書庫等に散在しています。また、1.1(1)(ii)に挙げたように、子どもへの読み聞かせ(おはなし会)についても既に3館2分室で実施されています。

新たに子育て支援サービスの中心となる館に、資料等やプログラムをどの程度集約し、他の施設のサービスはどの程度継続するのか、運営体制の観点からも検討・整理が必要となります。

(4) 関係機関との連携

子育てについて、専門的な知識・ノウハウを必要とする利用者への取り次ぎや、専用 コーナーへの資料の供与、出張相談や出張イベントなど、庁内(子どもすこやか部)を はじめ、子育て支援センターや保健センター、家庭児童相談室等の子育て支援関連の専 門機関等との連携は不可欠です。

実際に緊密な取組を展開するには、形ばかりの連携体制づくりでは機能しないことから、サービス開始前から定期的に情報交換や意見交換を行う、年間での出張相談や出張イベントの計画を共同で作成するなど、双方の担当職員が継続的に行う必要があります。

(5) 利用拡大 (立地 · PR)

各種アンケートでは、半数弱の市民が図書館を利用しておらず、子育て中の主な利用 対象者も約3割は図書館を利用していません。このままでは新しいサービスを始めても、 利用が低迷する恐れがあります。

そこで主なサービス対象者にサービスを認知してもらい、かつ気軽に立ち寄ってもら う工夫が必要となります。

(i)館の立地

本サービスは、子育て中(あるいはこれから子育て)の市民が主な利用対象者となります。そこで子連れで気軽に立ち寄れるよう、次のような立地条件を満たすことが必要です。

- 自家用車や公共交通機関でアクセスしやすい所に立地
- ●子ども・育児用品・ベビーカー等を車に乗せての来館を想定し、駐車場が確保 されていること
- ●連携する関係機関等と近接しており、各機関等に取り次ぐ場合に利用者が足を 延ばしやすいこと
- ●子育て中の市民がよく利用する商業施設等に隣接・近接し(或いは合築され)、いわゆる「ついで(買物前や買物帰り等の)利用」や「ながら利用(カフェに本を持ちこみ読書等)」が容易で、図書館の存在をアピールしやすいこと、等

(ii)広報·PR

立地と併せて重要なのが、サービスを市民に認知してもらうことです。図書館が どこでどのようなサービスを提供しているのか、よく知らない市民もおられるよう なので、市のホームページや広報等の様々な媒体を通じ、サービス内容の周知を繰 り返す必要があります。

2. 学校連携

2.1. 必要機能(提供サービス)

市立図書館は市立の小中学校と連携し、学校図書館の活性化を支援します。教職員への授業に必要な資料の提供、児童・生徒へのより豊富な本の提供を実現し、結果としてより多くの市民が市立図書館の資料を利用できるようにします。

(1) 学校図書館での館外資料の利用

(i)図書館同士の連携

他校の資料、市立図書館の資料、市立図書館を介した市外(国会、府立、他市)の図書館の資料を、学校図書館にて一元的に検索・予約し、貸出・返却できるサービスを提供します。

(ii)学校図書館の蔵書の充実

団体貸出の仕組みを活用し、市立図書館の多数の資料を一定期間(月単位)貸し出し、定期的に入替えることで、学校図書館の蔵書を充実させます。

また、市立図書館の蔵書の一部を学校図書館に置くことにより、市立図書館の開架スペースや書庫の狭さの緩和につなげます。

(2) 学校図書館の開館時間の拡大

学校図書館にて他校や市立図書館の豊富な資料に触れられるようにするには、いつも 学校図書館が開いていて、思い立った時に利用できる環境づくりが必要となります。

現状では、司書教諭が多忙であるため、開設日・時間が非常に限られている学校もあります。市立図書館は学校図書館の開館時間を拡大できるよう支援します。

(3) 本と利用者をつなぐ人によるサービス

学校図書館で豊富な資料を活用してもらうには、本について相談に応じ、紹介をすることで、本と教職員や児童・生徒をつなぐ人が必要です。

そこで教職員や児童・生徒の本の選択を支援し、ブックトーク*(本の紹介)や読み聞かせ、ストーリーテリング(覚えたお話を本を使わずに聞き手の目を見ながら語ること)のような本に親しむプログラムを行うなど、人によるサービスの充実を支援します。

(4) 読書通帳サービス

学校図書館で豊富な資料を多くの児童・生徒に利用してもらえるよう、希望する児童・生徒に「読書通帳」を発行します。この通帳に、借りた本の書名等を銀行の預金通帳のように機械等で記帳するサービスを提供し、児童・生徒の本の利用促進に努めます。

^{**} 狭義では、図書館や学校で司書等が、あるテーマに沿って、何冊かの様々なジャンルの本を上手に順序立てて紹介すること。広義では、自分の読んだ本を友人に薦める、書店でお客の質問に答えて店員が本について説明する、図書館で司書が子どもに面白い本を薦める等文字通り本について話をすること。

2.2.必要な設備

2.1 に挙げたサービスの実現のため、次のような設備等が必要となります。

(1) 図書館システム*との連携

学校図書館にどのような資料があるのか、誰が借りているのか、いつ返却されるのか 等を把握するためには、コンピュータによる学校図書館システムが必要となります。ま た、他校の図書館の資料も探すためには、各校に学校図書館システムが導入され、ネッ トワークで結ばれている必要があります。

更に、学校図書館で市立図書館や市外の図書館の蔵書を検索・予約するためには、インターネットが使えるパソコンが学校図書館に配置されている必要があります。各校の学校図書館システムから直接、市立図書館や市外の図書館の蔵書を検索・予約ができるように、公共図書館のシステムとの連携が望まれます。

(i)学校図書館システムへの支援

学校図書館システムの構築にあたっては、図書館システムとの連携を視野に入れて支援を行います。

(ii)学校図書館の蔵書へのバーコード貼付

学校図書館システムで貸出・返却処理ができるよう、蔵書へのバーコードの貼付 が必要となります。

(iii)図書館システムとの連携に必要な設備等の整備

学校図書館システムで市立図書館等の蔵書の貸出・返却処理ができるよう、図書館システムとの連携に必要な端末類の設置やネットワーク整備等が必要となります。

(2) 学校図書館への学校司書の配置

現在の学校図書館の開館時間の拡大や人によるサービスの充実は、多忙な司書教諭の みで実施することは困難です。そこで、学校図書館専従の運営スタッフが必要となりま す。

学校図書館法の改正にともない、学校司書の配置が平成 27(2015)年度より努力義務 になることに対応していくため、学校司書の配置を支援します。

(3) 通帳の発行、記帳機の学校図書館への配置

「読書通帳」(冊子)を児童・生徒数分だけ準備すると共に、児童・生徒が通帳を挿入し借りた本の書名等を記帳する機器等を学校図書館に配置する必要があります。

^{**} 図書館システムとは、東大阪市立図書館網のシステムのことで、学校図書館システムとは、東大阪市立の学校園の学校図書館のシステムのことです。

2.3. 実現に向けた課題

2.2 の準備に向けては、次のような課題があり、一つ一つクリアしていく必要があります。

(1) 学校図書館システムへの蔵書登録等

学校図書館の蔵書の登録には、データの補正やバーコードの貼付等の膨大な作業が必要となります。

(2) 学校図書館システム・記帳機等の学校図書館への導入

学校図書館へのパソコンの導入等も学校数を考えると多額の予算が必要となります。 費用を抑えるには一斉導入が理想ですが、全ての学校が(1)の準備作業等を一斉に進め ることも難しいため、作業が終わった学校から段階的に導入することで導入費用の平準 化を図ることも考えられます。

(3) 学校司書の配置

本市には市立の小学校が54校、中学校が26校あります。学校司書の配置も学校数を考えると多額の予算が必要となることから、一斉に配置するのではなく、まず半数の学校から段階的に配置することや、1名の学校司書が2校を受け持つ方法でスタートすることが考えられます。

(4) 学校司書の研修

現在、新たな学校司書資格の検討が始まっています。これまでは学校司書という正式な名称も、そのような資格もありませんでした。学校図書館の役割が学校教育の支援と、児童生徒の読書の支援にあるように、学校司書にも同じ役割とそれを果たすための技術・知識が求められます。これは従来の司書資格や司書教諭資格の課程では学べなかったものです。そのような新しい仕事であり、しかも各校に複数名の配置は難しいことから、新たに雇用される学校司書にとって、情報を交換し、学びあうことができる場が必要です。

3. ビジネス支援サービス

3.1. 必要機能(提供サービス)

ビジネス支援アンケートによると、本市在住で働いている人(半数以上が会社員。経営者や自営業・自由業は約2割)の1/3超が図書館を利用していません。利用している方でも、最も多く利用している図書館は府立図書館(回答者の1/4)という状況ですが、市立図書館でビジネス支援サービスが提供されれば83%の方が利用したいと答えています。

この結果に基づき、市立図書館は今後、これまであまり市立図書館を利用してこなかった市民が求めている仕事に必要な資料・情報を収集・提供することで、より多くの市民に役立つ図書館を目指します。

ビジネス支援図書館として考えられるサービスを全て提供するとなると、相当のスペース、費用、専門家等が必要となりますが、本市の場合、市内に専門書を揃え市立図書館をバックアップする府立図書館が立地しており、隣接する大阪市内にもビジネス支援を専門とする府立中之島図書館もあることから、両館と競合するのではなく、適切な役割分担により「仕事に役立つ」、市民のニーズに合ったサービスに特化することとします。

例えば、あらゆる世代にとって就職のために必要な情報として、様々な職業に関する情報、職業に係る資格やその試験に関する情報、職業教育のための専門学校や通信教育の情報、業界や企業に関する情報、求人情報、就職活動のためのハウツーや就職試験対策法などが挙げられます。市立図書館はこのような情報の提供に注力します。

また、市立図書館が利用者の要求に対し十分な情報提供ができない場合に、その要求に 応えられそうな他の機関を紹介するレフェラルサービスをビジネス支援サービスの柱とす ることも考えられます。本市の場合、紹介先としてビジネス支援に力を入れている府立中 之島図書館や、本市にある府立中央図書館、市内にある経営学部や経済学部を持つ大学の 附属図書館が考えられます。

大学図書館にとっては、公立図書館との連携は社会貢献の一つです。そして、経営学・経済学が学べる大学の図書館は、ビジネス情報の宝庫です。市立図書館は大学図書館と連携することで、大学のまち東大阪らしいビジネス支援サービスを検討していきます。

(1) 専用コーナーの設置

ビジネス支援アンケートにおいては、約2/3の方が、関連資料を集めた専用コーナーの設置を希望しています。この結果を踏まえ、仕事に役立つ大抵の資料が揃っているような専用コーナーの設置に努めます。

(2) 充実した閲覧環境

ビジネス支援アンケートにおいて、最も希望されているサービスが「閲覧室の充実」(回答者の 72.1%)、第 4 位が「持ち込みパソコン用の IT サービス環境」(同 63.6%) であったことを踏まえ、設置する専用コーナーでは、まずは調べものがしやすい環境づくりを重視します。

パソコンの持ち込みにも対応し、電源コンセントを備えた、さまざまな資料を広げやすいテーブルを必要数配置すると共に、インターネット検索による調べものも可能なよう、インターネットに接続できるLAN環境も備えた閲覧コーナーを設けます。

(3) 仕事に役立つ資料の収集・集約

ビジネス支援アンケートにおいては、「閲覧室の充実」に次いで多くの(2/3 を超える)方が「専門図書・資料の収集強化」を希望しています。また、充実すべき資料・情報として、業界動向(回答者の38.4%)、法令や判例(同33.1%)、事例や書式(同32.9%)、新聞や雑誌の記事(同30.9%)、統計資料(同29.4%)、ある分野の専門家(同29.4%)、消費者動向(同28.4%)、ビジネスマナー(同23.6%)が多くの方から望まれています。

一般的に、ビジネス支援イコール起業・事業化等の支援というイメージが強くありますが、本市では「仕事に役立つ情報」の具体的な定義として、仕事をしている市民が仕事で必要な情報を基本とし、更に現在は仕事をしていないがこれから仕事をしようとする市民(学生、子育てが一段落した主婦等)が必要とする情報(ビジネスマナーに加え、求人、資格、履歴書や面接のノウハウ等も)も対象とします。

設置する専用コーナーでは、前述の定義に沿った仕事に役立つ情報・資料の収集を強化すると共に、3 館 2 分室に散在する既存の関係資料等を集約します。資料・情報は、購入できるものに限らず、地域のフリーペーパーなど関係者の協力を得ながら幅広く収集します。

加えて、このようなジャンルの資料・情報は常に新しいものが出て、陳腐化するのも早いことから、専用コーナーに置く資料の更新・入替え等には十分注意することとし、情報の鮮度を保ちます。

(4) 利用の支援

専用コーナーに置いた豊富な資料・情報を、市民が効果的に効率よく利用できるよう に、様々な形で支援を行います。

(i)情報収集支援ツールの提供

ビジネス情報リストや記事索引、レファレンスの事例、パスファインダー(文献・情報の探し方や調べ方の案内)等を整備し、提供します。

これらツールは、既に多数の公立図書館等にて豊富に作成・提供されていることから、ゼロから作成するのではなく、新しいもの、分かりやすいもの、使い良いものを選び、提供します。

(ii)専門職員によるレファレンス

図書館での情報収集は、利用者に対して(i)のようにツール類を提供するだけでは難しい場合も少なくありません。そこで専門知識を有する職員による対面型の相談・支援(レファレンスサービス)が重要となります。

ビジネス支援アンケートにおいても、4割弱の方が、レファレンスサービスの利用を希望していることから、専用コーナー担当の職員を配置し対応します。

(iii)使い方講習会

(i)(ii)に加え、専門資料でデータベースの基本的な使い方や、便利なツール・活用法等について、専用コーナー担当の専門職員による講習会を定期的に開催します。

インターネット検索で調査する人のために、書籍等の資料・情報のみならず、インターネットやデータベース(新聞記事・雑誌記事等)の簡単で効果的な使い方や、

インターネット上で信頼性の高い情報の見分け等、利用者が便利に感じる(気になる) ハウツーについて講習します。

(iv)連携する専門家・機関等への取り次ぎ

ビジネス支援アンケートでは、専門家による図書館での相談サービスへのニーズ は他に比べるとそうたかくはありません。しかし、深く調べていくなかで専門的な 知識・ノウハウを必要となることもあります。

市立図書館は、庁内(経済部)をはじめ、商工会議所、ハローワーク、クリエイションコア東大阪、中小企業診断協会、市内の大学といった産業振興や事業所の支援、雇用の支援等に関係する専門機関等と連携します。必要な資料・情報等を専用コーナーにて提供するだけでなく、利用者が専門家への相談を必要とする際には、関係機関への取り次ぎを行い、すみやかに相談が受けられるよう支援します。

(5) 夜間開館の柔軟な導入

ビジネス支援アンケートでは、ビジネス支援サービスの利用を希望する時間帯は、回答が多い順に「休日午前」「平日夜間 (19 時以降)」「平日午後 (12~16 時台)」となっています。この結果から、図書館に仕事帰りに立ち寄りたい方と、休日にじっくり腰を据えて調べたい方がいると推測されます。

現在の夜間開館は第1章4.1(2)(iii)に示したように、必ずしも利用されていません。 この点は今後改善していきますが、本サービスに限っては、平日夜間の開館について曜日・時間帯を検討し、仕事帰りに立ち寄りたい方にとって最適な開館時間を設定します。

3.2. 施設等構成

3.1 に挙げたサービスの実現のため、設置する専用コーナーには、次のような設備等が必要となります。

なお、以下は通常の一般図書サービスに併設される専用コーナーのみの施設・設備等に 絞って列挙していますので、ビジネス支援単独(ビジネス支援図書館単館)での設置の場 合は、下記の他に事務室や書庫、機械室や廊下・階段・トイレ等の諸施設・設備が別途必 要になります。

(1) 仕事に役立つ資料の配架スペース

ビジネス書や専門書等の図書のほか、DVD等の映像資料(配置するPCもしくは持ちこみPCで閲覧)、市内の産業・雇用関係機関や事業所等のカタログ・パンフレット・フリーペーパー類を収集・配架します。

新聞は「日刊工業新聞」「日経産業新聞」等、雑誌は「日経ものづくり」等を配架します。

(2) 閲覧環境

(i)閲覧室兼講習室

パソコンの持ち込みにも対応し、電源コンセントを備えた、さまざまな資料を広げやすいテーブルを配置し、インターネットに接続できる無線 LAN 環境を提供しま

す。

壁にはホワイトボードやスクリーンを備え、講習会の会場としても使えるように します。

館内共通の研修室・会議室あるいは複合施設内で共有の研修室・会議室等が設けられ、利用可能となる場合は、他のスペースとの壁を設けない閲覧室とすることも考えられます。

(ii)パソコン席

インターネット検索による調べものも可能なよう、インターネットに接続でき、 DVD 資料が閲覧できるパソコンを設置した席を設けます。

有料で印刷やコピーができる複合機を設けます。

(iii)サービスカウンター

職員が資料の貸出・返却、各種応対等を行うカウンターを設けます。

(iv) 資料探し相談コーナー

サービスカウンターに隣接し、資料の探し方等の相談にのり、お手伝いをするレファレンスサービスのためのスペースを設けます。館内外の資料等の検索端末を設置する他、各種パスファインダー等も置きます。

専門家が来館して利用者の相談に乗る場合もこのスペースを活用します。

(3) 専用コーナー担当の司書職員の配置

資料の選定・収集・入替えや、レファレンス、講習会の実施、専門の関係機関との連携等、専用コーナーを運営する職員が必要となります。このため、通常の司書としての知識やスキルに加え、ビジネス支援に関する十分な知識を有する職員の配置に努めます。

3.3. 実現に向けた課題

3.2 に挙げた施設・設備等の整備に向けては、次のような課題があり、一つ一つクリアしていく必要があります。

(1) 専用コーナーへの資料の集約

3館2分室の開架および書庫等に散在する関係資料から専用コーナーに集約する資料 を選別します。その際、古く陳腐化した資料等の除籍及び処分も行います。新たに収集 する資料の選定、それら資料の配置など、多くの準備作業が必要となります。

(2) 必要なスペースの確保

市立図書館はいずれの館・室も手狭で、十分な広さの確保が長年の重要課題となっています。今回3館のうち1館が新築、1館がリニューアルの予定となっていることから、この2館にて本サービスを実施する場合は、資料の配架及び閲覧に適切なスペースの確保を最優先して設計を行う必要があります。

(3) 利用拡大(立地·PR)

各種アンケートでは、半数弱の市民が図書館を利用しておらず、ビジネス支援サービスの主な利用対象者も 1/3 強は図書館を利用していません。しかも利用している人の 1/4 は府立図書館の利用者となっています。このままでは新しいサービスを始めても、利用が低迷する恐れがあります。

公立図書館のビジネス支援サービスは全国 200 館以上で実施され、その数は徐々に増加しています。しかしブームから 10 年以上経った現在では、利用者が少ないため事業の費用対効果の低さが厳しく問われ、サービスを廃止した自治体も出ています。

そこで主なサービス対象者にサービスを認知してもらい、かつ気軽に立ち寄ってもら う工夫が必要となります。

(i)館の立地

永和図書館は旧館を閉鎖し暫定施設に移転したところ、大きな駅の前にある商業 施設内という立地環境も大きく影響し、利用者が増加しています。

このことからもわかるように、利用者の確保・拡大に大きく影響するのが立地環境です。本サービスは、現在仕事をしている市民が主な利用対象者となります。平日夜間の利用希望に対応し、仕事帰りに気軽に立ち寄れる、多くのビジネスパーソンが利用しやすい交通機関の要所に近い所に立地する必要があります。

更に、次のような立地条件ができる限り多く揃うことを目指す必要があります。

- 子育てで離職中の主婦が、子連れで仕事や資格探し等に来館することも考慮 し、駐車場が確保されていること
- ●連携する産業支援等の関係機関等と近接しており、各機関等に取り次ぐ場合に 利用者が足を延ばしやすいこと
- 商業施設やオフィス等、多くの人の出入りがある他の施設と隣接し(或いは合築され)、いわゆる「ついで利用」や「ながら利用(カフェに本を持ちこみ読書等)」が容易で、図書館の存在をアピールしやすいこと、等

(ii)広報・PR

立地と併せて重要なのが、サービスを市民に認知してもらうことです。図書館が どこでどのようなサービスを提供しているのか、よく知らない市民もおられるよう なので、市のホームページや広報等の様々な媒体を通じ、サービス内容の周知を繰 り返す必要があります。

また、児童・生徒向けの「読書通帳」と同様、利用促進のためのツールや仕掛けを用意する等の工夫も検討していく必要があります。

(4) ビジネス支援の知識を有する司書の配置

ビジネス支援サービスに従事する職員は、通常のレファレンスサービスを行う知識に加え、ビジネス支援特有の情報や情報源あるいはその所在、それらの利用上の工夫やノウハウ等、ビジネス支援に特化した知識も必要となります。

また、常に更新される様々な情報・資料等を把握し、収集・配架する情報・資料等を適宜選択・入替え等を進める能力も必要となります。

以上から業務に関連する知識やノウハウを有する司書の配置に努めます。

(5) 関係機関との連携

専門的な知識・ノウハウを必要とする利用者へのレフェラルサービスや、専用コーナーへの関連資料の供与等において、庁内(経済部)をはじめ、商工会議所、ハローワーク、クリエイションコア東大阪、中小企業診断協会、市内の大学といった産業振興や事業所の支援、雇用の支援等に関係する専門機関等との連携は、サービス提供体制の整備において不可欠です。

実際に緊密な取組を展開するには、形式だけ整えた連携体制づくりでは機能しないことから、サービス開始前から定期的に情報交換や意見交換を行い、双方の担当職員が継続的に連絡を取り合うよう努めます。

資料編

目 次

【アンケートについて】
図書館のビジネス支援サービスに関するアンケート (質問)・・・・・・・・1
図書館のビジネス支援サービスに関するアンケート(回答)・・・・・・・・4
図書館の子育て支援サービスに関するアンケート (質問)・・・・・・・・・7
図書館の子育て支援サービスに関するアンケート (回答)・・・・・・・・・9
市立図書館に関するアンケート (質問)・・・・・・・・・・・・・・12
市立図書館に関するアンケート (回答)・・・・・・・・・・・・・・14
【図書館統計について】
図書館施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
組織・機構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
予算・決算・・・・・・・・・・・・・・・・・19
利用統計(平成23年度~平成25年度)・・・・・・・・・・・・・ 20
利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 2
分類別蔵書数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
分類別貸出冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 4
【その他】

平成26年度東大阪市立小・中学校児童生徒数・学級数・・・・・・・・25

図書館のビジネス支援サービスに関するアンケート

あなたの仕事の業種をお答え下さい。勤務先が複数の業種を抱えている場合は、あなたが従事している業種をお答え下さい。 (最も近いものを1つ選択)

	0	1.	農林水産
	0	2.	鉱業·採石·砂利採取
	0	3.	建設
	0	4.	製造
	0	5.	電気・ガス・水道
	0	6.	情報通信
	0	7.	運輸·郵便
	0	8.	卸売·小売
	0	9.	金融·保険
	0	10.	不動産·物品賃貸
	0	11.	学術·専門·技術サービス
	0	12.	宿泊·飲食サービス
	0	13.	生活関連サービス・娯楽
	0	14.	教育·学習支援
	0	15.	医療·福祉
	0	16.	その他サービス業
	0	17.	公務
	0	18.	その他
Q2	あな	たの動	助務地をお答え下さい。(あてはまるものを1つ選択)
	0	1.	東大阪市内
	Ö	2.	大阪市
	Ō	3.	大東市
	0	4.	八尾市
	0	5.	堺市
	0	6.	その他大阪府内
	0	7.	兵庫県
	0	8.	京都府
	0	9.	奈良県
	0	10.	上記以外
Q3	あな	たが最	最もよく利用する図書館はどちらですか。(あてはまるものを1つ選択)
	0	1.	花園図書館
	0	2.	永和図書館
	0	3.	旭町図書館
	0	4.	大蓮分室
	0	5.	石切分室
	0	6.	移動図書館
	0	7.	リージョンセンターの図書コーナー
	0	8.	大阪市の図書館
	0	9.	大東市の図書館
	0	10.	八尾市の図書館
	0	11.	府立図書館
	0	12.	これら以外の図書館
	0	13.	図書館を利用しない

Q1

Q 4	あな 択)	たは、	現在、仕事上(新規/既存事業、起業	等含む)必要な情	報はと	どのよ	うに収	7集していますか。(あてはまるものを全て選			
		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.	書籍を買って調べる 雑誌を買って調べる インターネットで検索 図書館の資料を調べる 図書館で館員に探して貰う 官公庁等の資料にあたる 大学・研究機関にあたる 周りの知っている人に聞く その他【								
Q 5			館が、今後、仕事上(新規/既存事業、 川用したいですか。(最も近いものを1つ		要な資	料等を	提供	する「ビジネス支援サービス」を提供する場			
Q 6	O O O O O O 市の	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.	平日(月~金) 午後(12~16時台) 平日(月~金) 夕方(17~18時台) 平日(月~金) 夜間(19時以降) 休日(土・日・祝) 午前中 ・ 休日(土・日・祝) 午後(12~16時台) ・ 休日(土・日・祝) 夕方(17~18時台) ・ 休日(土・日・祝) 夜間(19時以降)								
& O	もの	を1つ	ずつ選択)		4	0	0				
					1 ぜひ利用したい	2 あってもなくてもよい	3 不要				
		1.	関連資料を集めた専用コーナーの記	置	0	0	0				
		 3. 	情報収集支援ツールの提供 専門図書・資料の収集強化		0	0	0				
		3. 4.	シンポジウムやセミナー等の開催		0	0					
		5.	商工会や専門家(中小企業診断士等談・助言	等)と連携した相	0	0	0				
		6.	地域に関する資料の収集充実		0	0	0				
		7.	専門職員によるレファレンスサービス 手伝い)	く(資料探しのお	0	0	0				
		8.	有料商用データベースの検索		0	0	0				
		9.	持ち込みパソコン用に電源や有線/ サービス環境の提供		0	0	0				
		10.			0	0	_				
		11.	閲覧室の充実		0	0	0				

Q7	市の図書館が、今後、「ビジネス支援サービス」を提供する場合、どのような情報・資料等を充実すべきと考えますか。(あてはまるものを全て選択)							
		1.	法令や判例					
		2.	新聞・雑誌の記事					
		3.	事例や書式					
		4.	統計資料					
		5.	業界動向					
		6.	消費者動向					
		7.	ある分野の専門家					
		8.	規格などの技術情報					
		9.	企業や団体の名簿					
		10.	式典や行事の運営					
		11.	ビジネスマナー					
		12.	会社録·名鑑一覧					
		13.	その他【					
		14.	いずれも充実の必要はない					

図書館のビジネス支援サービスに関するアンケート

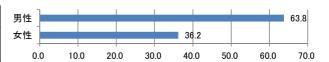
調査概要

■調査方法	インターネットリサーチ
	1-2 12122
■調査対象	東大阪市在住の、働いている方(ネットリサーチ会社のモニターのうち該当する方)
■実施期間	2014年06月13日(金)~2014年06月20日(金)
■有効回答数	453(母集団493、回答率91.9%)

集計結果

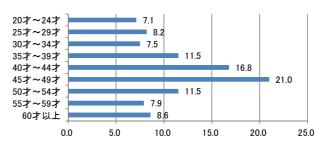
[TABLE001]

SEX	性別 単一回答	N	%
1	男性	289	63.8
2	女性	164	36.2
	全体	453	100.0



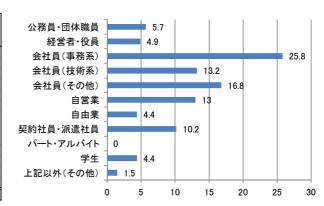
[TABLE002]

AGEID	年齢階層 単一回答	Z	%
- 1	20才~24才		
		32	7.1
	25才~29才	37	8.2
	30才~34才	34	7.5
4	35才~39才	52	11.5
5	40才~44才	76	16.8
6	45才~49才	95	21.0
	50才~54才	52	11.5
8	55オ~59オ	36	7.9
9	60才以上	39	8.6
	全体	453	100.0



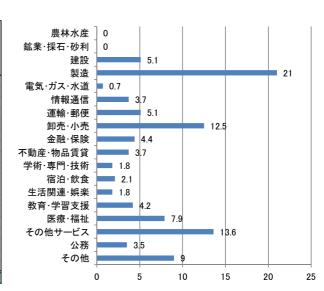
[TABLE003]

[IMDEE000]			
SQ2	あなたの職業をお答え下さい。(最も近い ものを1つ選択) 単一回答	N	%
1	公務員・団体職員	26	5.7
	経営者・役員	22	4.9
3	会社員(事務系)	117	25.8
4	会社員(技術系)	60	13.2
5	会社員(その他)	76	16.8
6	自営業	59	13.0
7	自由業(雇用関係から独立し、専門的な知識や才能に基づく職業。開業医・弁護士・芸術家等)	20	4.4
8	契約社員・派遣社員	46	10.2
9	パート・アルバイト	0	0.0
10	学生	20	4.4
12	上記以外(その他)の職業	7	1.5
	全体	453	100.0



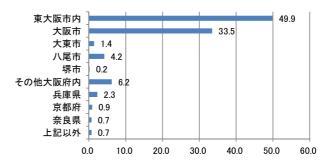
[TABLE004]

[I / IDEE OO +]			
Q1	あなたの仕事の業種をお答え下さい。 勤務先が複数の業種を抱えている場合 は、あなたが従事している業種をお答え下 さい。(最も近いものを1つ選択)		
	単一回答	N	%
1	農林水産	0	0.0
2	鉱業·採石·砂利採取	0	0.0
3	建設	22	5.1
4	製造	91	21.0
5	電気・ガス・水道	3	0.7
6	情報通信	16	3.7
7	運輸·郵便	22	5.1
8	卸売·小売	54	12.5
	金融·保険	19	4.4
10	不動産·物品賃貸	16	3.7
11	学術・専門・技術サービス	8	1.8
	宿泊・飲食サービス	9	2.1
13	生活関連サービス・娯楽	8	1.8
14	教育·学習支援	18	4.2
	医療·福祉	34	7.9
16	その他サービス業	59	13.6
17	公務	15	3.5
18	その他	39	9.0
	全体(※学生以外のため)	433	100.0



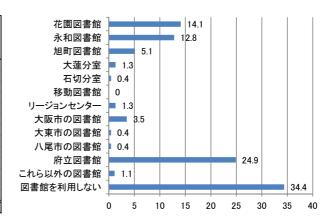
[TABLE005]

[IMDEE003]			
Q2	あなたの勤務地をお答え下さい。(あては まるものを1つ選択) ^{単一回答}	N	%
-			
l l	東大阪市内	216	49.9
2	大阪市	145	33.5
3	大東市	6	1.4
4	八尾市	18	4.2
5	堺市	1	0.2
6	その他大阪府内	27	6.2
7	兵庫県	10	2.3
	京都府	4	0.9
9	奈良県	3	0.7
10	上記以外	3	0.7
	全体(※学生以外のため)	433	100.0



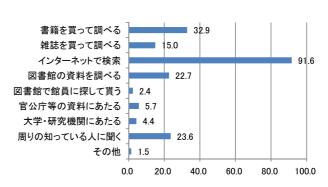
[TABLE006]

Q3	あなたが最もよく利用する図書館はどちらですか。(あてはまるものを1つ選択)		
	単一回答	N	%
1	花園図書館	64	14.1
2	永和図書館	58	12.8
3	旭町図書館	23	5.1
4	大蓮分室	6	1.3
5	石切分室	2	0.4
6	移動図書館	0	0.0
7	リージョンセンターの図書コーナー	6	1.3
8	大阪市の図書館	16	3.5
9	大東市の図書館	2	0.4
10	八尾市の図書館	2	0.4
11	府立図書館	113	24.9
12	これら以外の図書館	5	1.1
13	図書館を利用しない	156	34.4
	全体	453	100.0



[TABLE007]

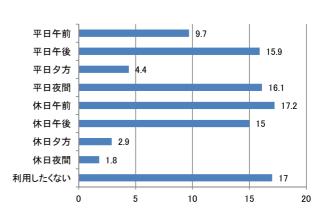
[I/(DEE007]			
Q4	あなたは、現在、仕事上(新規/既存事業、 起業等含む)必要な情報はどのように収集 していますか。 (あてはまるものを全て選択)		•
	複数回答	N	%
1	書籍を買って調べる	149	32.9
2	雑誌を買って調べる	68	15.0
3	インターネットで検索	415	91.6
4	図書館の資料を調べる	103	22.7
5	図書館で館員に探して貰う	11	2.4
6	官公庁等の資料にあたる	26	5.7
7	大学・研究機関にあたる	20	4.4
8	周りの知っている人に聞く	107	23.6
9	その他	7	1.5
	全体	453	100.0



9 その他の回答	性別	年齢	職業
本屋で立ち読み	女性	37	パート・アルバイト
収集してない	男性	38	会社員(その他)
仕事では利用しません	男性	41	その他
特に収集していない	男性	65	自営業
仕事上では収集しない	女性	35	会社員(事務系)
保健所、税務署等に行って聞く	女性	41	自営業
現場の人に聞く	男性	47	自営業

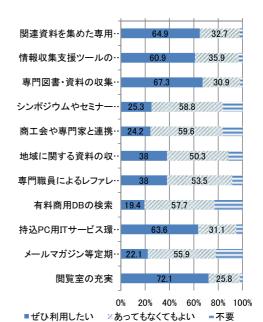
[TABLE008]

市の図書館が、今後、仕事上(新規/既存事業、起業等含む)必要な資料等を提供する「ビジネス支援サービス」を提供する場合、いつ利用したいですか。(最も近いものを1つ選択)		%
	44	9.7
平日(月~金) 午後(12~16時台)	72	15.9
平日(月~金) 夕方(17~18時台)	20	4.4
平日(月~金) 夜間(19時以降)	73	16.1
休日(土·日·祝) 午前中	78	17.2
休日(土·日·祝) 午後(12~16時台)	68	15.0
休日(土・日・祝) 夕方(17~18時台)	13	2.9
休日(土·日·祝) 夜間(19時以降)	8	1.8
利用したくない	77	17.0
全体	453	100.0
	事業、起業等合む)必要な資料等を提供する 「ビジネス支援サービス」を提供する場合、いつ利用したいですか。(最も近いものを1つ選択) 単一回答 平日(月~金) 午前中 平日(月~金) 午(12~16時台) 平日(月~金) 夕方(17~18時台) 平日(月~金) 夜間(19時以降) 休日(土・日・祝) 午前中 休日(土・日・祝) 午後(12~16時台) 休日(土・日・祝) 夕方(17~18時台) 休日(土・日・祝) 夕方(17~18時台) 休日(土・日・祝) 夜間(19時以降)	事業、起業等含む)必要な資料等を提供する 「ビジネス支援サービス」を提供する場合、いつ利用したいですか。(最も近いものを1つ選択) 単一回答 N 平日(月~金) 午前中 44 平日(月~金) 午後(12~16時台) 20 平日(月~金) 夜間(19時以降) 73 休日(土・日・祝) 午前中 78 休日(土・日・祝) 夕方(17~18時台) 68 休日(土・日・祝) 夕方(17~18時台) 13 休日(土・日・祝) 夜間(19時以降) 8 利用したくない 77



[TABLE009]

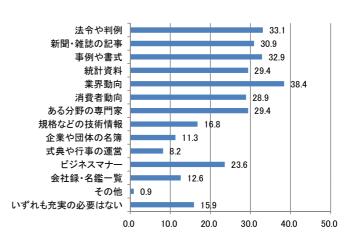
[TABLE009]					
	市の図書館が、今後、「ビジネス支援サー		1	2	3
Q6	ドス」を提供する場合、 どのようなサービスを利用したいですか。 (それぞれ、最も近いものを1つずつ選択) 単一回答	全体	ぜひ利用 したい	あってもな くてもよい	不要
	明本次州ナ焦 はま 東田 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	376	244	123	9
'	関連資料を集めた専用コーナーの設置	100.0	64.9	32.7	2.4
0	情報収集支援ツールの提供	376	229	135	12
		100.0	60.9	35.9	3.2
2	専門図書・資料の収集強化	376	253	116	7
3	寺	100.0	67.3	30.9	0.9 1.9
1	シンポジウムやセミナー等の開催	376	95	221	60
		100.0 25.3 58.8	16.0		
5	商工会や専門家(中小企業診断士等)と連	376	91	224	61
0	携した相談・助言	100.0	24.2	59.6	16.2
6	地域に関する資料の収集充実	376	143	189	44
•		100.0	38.0	50.3	11.7
7	専門職員によるレファレンスサービス(資料	376	143	201	32
	探しのお手伝い)	100.0	38.0	53.5	8.5
8	有料商用データベースの検索	376	73	217	86
		100.0	19.4	57.7	22.9
9	持ち込みパソコン用に電源や有線/無線	376	239	117	20
	LAN等のITサービス環境の提供	100.0	63.6	31.1	5.3
10	メールマガジン等定期的な情報配信	376	83	210	83
		100.0	22.1	55.9	22.1
11	閲覧室の充実	376	271	97	8
	P-470-1-7074	100.0	72.1	25.8	2.1



※回答総数はQ5で「利用したくない」以外を選択した者(453-77=376人)

[TABLE010]

Q7	市の図書館が、今後、「ビジネス支援サービス」を提供する場合、 どのような情報・資料等を充実すべきと考えますか。(あてはまるものを全て選択)		
	複数回答	N	%
1	法令や判例	150	33.1
2	新聞・雑誌の記事	140	30.9
3	事例や書式	149	32.9
4	統計資料	133	29.4
5	業界動向	174	38.4
6	消費者動向	131	28.9
7	ある分野の専門家	133	29.4
8	規格などの技術情報	76	16.8
9	企業や団体の名簿	51	11.3
10	式典や行事の運営	37	8.2
11	ビジネスマナー	107	23.6
12	会社録・名鑑一覧	57	12.6
13	その他	4	0.9
14	いずれも充実の必要はない	72	15.9
	全体	453	100.0



13 その他の回答	性別	年齢	職業
ひろがり、つながり	男性	33	会社員(事務系)
わからない	女性	51	会社員(事務系)
海外情報	女性	41	会社員(事務系)
エンターティンメント関連	男性	56	自由業

図書館の子育て支援サービスに関するアンケート ご協力のお願い

平素より、本市の図書館事業にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市は、より多くの皆様に利用される図書館をめざし、今年度「図書館基本構想」 を策定しております。その中で、今後新たに充実するサービスの一つとして子育て期の親 子等を支援する「子育て支援サービス」を検討しており、主な利用者と想定される子育て 中の市民の皆様の要望を伺いたく、アンケート調査を実施することとなりました。

ご協力頂いたアンケート調査の結果は、必要なサービスの把握のため、統計的な数値と して取りまとめますので、個人に関する内容が公表されることは、一切ありません。

皆様方の御意向を、新しい図書館サービスに反映するため、より多くの方々の御協力を 賜りたいと考えております。つきましては、御多忙中、大変恐縮ですが、本調査の主旨を ご理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 6 月

東大阪市社会教育部図書館総務室

回答頂くあなたのことについてお伺いします。

		· ·	_	
Q1 年齢 【数字に1つO】			80 歳代 70 歳以上	4.40 歳代
Q2 現在の就 労の状況 【 ^{数字に1つO} 】	1. 就労している (フル 2. 就労している (フル 3. 就労している (パー 4. 以前は就労していただ 5. これまで就労したこと	ッタイム) が育児や -トタイム・アルバ が現在は就労していた	イト)	1
Q3 お子さんの 数 【数字に1つO】	1. 一人 2. 二人 3. 三人 4. 四人 5. 五人以上	Q4 最も下のお子さ んの年齢 【 ^{数字に1つO} 】	4. 三歳 5. 四	

Q5. あなたが最もよく利用する図書館はどちらですか。【数字に1つO】

		- -
1. 花園図書館	2. 永和図書館	3. 旭町図書館
4. 大蓮分室	5. 石切分室	6. 移動図書館
7. リージョンセンターの図書	ドコーナー	8. 子ども文庫
9. 大阪市の図書館	10. 大東市の図書館	11. 八尾市の図書館
12. 府立図書館	13. これら以外の図書館	
14. 図書館を利用していない		

Q6. あなたが、現在利用している、市の子育て支援事業【利用している数字全てにO】

- 1. 母親学級・両親学級・育児教室
- 2. ファミリーサポートセンター
- 3. 保育所(園)・幼稚園の園庭開放(親子で集える場)などの事業
- 4. 子育て支援センターやつどいの広場のような親子で集える場の提供
- 5. 子育て支援センターや保育所での相談
- 6. 保健センターでの相談
- 7 教育センター・教育相談室での相談
- 8. 幼稚園での相談

9. 療育センターでの相談

- 10. 市で実施する子育てセミナー・講演会
- 11. 休日・夜間の子育て相談ダイヤル
- 12. 育児支援家庭訪問

- 13. 保育所(園)での一時預り
- 14. ショートステイ

- 15. トワイライトステイ
- 16. 子育て支援情報誌(子育て支援ガイドブック「花まるぶっく」、子育てマップ、子育 てプラス等)
- 17. 子育て情報の配信(メルマガ(子育てハッピーメール)、フェイスブック等)
- 18. 現在は、上記のいずれも利用していない

市の図書館で子育て支援サービスを提供する場合に、あなたの希望をお尋ねします。

Q7 利用したい	1. 平日午前中 2. 平日午後(12~		~16 時)	3. 平日夕方(17	7~19 時)
時間帯	4. 平日夜間(19 時以降)	5. 休日午前中		6. 休日午後(12	2~16 時)
【数字に1つ〇】	7. 休日夕方(17~19 時)	8. 休日夜間(19	時以降)	9. 利用したく7	ない
Q8 <u>図書館で</u> 利用 たい			1.ぜひ利用したい	2.あってもなく てもよい	3.不要
利用したいサービス	関連資料を集めた専用コー	ーナーの設置	1	2	3
【それぞれ数字に 1 つ〇】	育児本·大型絵本等専門 収集強化	図書・資料の	1	2	3
	市内の子育て情報(パンプ 等)の配布	アレットやチラシ	1	2	3
	絵画・工作・歌・手遊び・位 レクリエーションの開催	体操等の講座・	1	2	3
	おもちゃを置いた遊び場の)設置	1	2	3
	保護者間での情報交換・ サロンの設置	交流のための	1	2	3
	乳幼児向けお話会(読み間	聞かせ)	1	2	3
	本選びの支援(レファレン)	ス)	1	2	3
	保護者の本選びの間の託	児サービス	1	2	3
	出産・育児に関する専門職	競員への相談	1	2	3
	その他()	1	2	3
Q9子育てに関	1. 妊娠・出産(健康・生活)	2. 子どもの体や	·発育	3. アレルギー	・予防接種
し <u>図書館で</u>	4. ケガ・病への対処	5. 障がい		6. 食事(離乳食	・弁当等)
充実すべ	7. しつけ・世話	8. 外出・遊び		9. 仕事(就労·	キャリア継続)
き情報	10. 虐待・DV	11. 経済面(費用		12. 育児用品	
【あてはまる数字全 てに〇】	13. 相談支援制度・拠点	14. 保育・預かり	サービス	15. サロンやサ	ークル
01001	16. 法律・制度	17. その他()

図書館の子育て支援サービスに関するアンケート

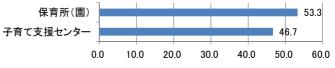
調査概要

■調査方法	自記式調査票への記入・提出
■調査対象	東大阪市在住の、子育てに携わっている方(保育所入所者の保護者、子育て支援センター利用者)
■実施期間	2014年6月2日(月)~2014年6月27日(金)
■有効回答数	424

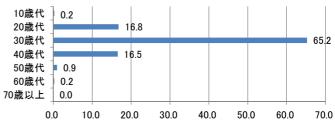
集計結果

[TABLE001]

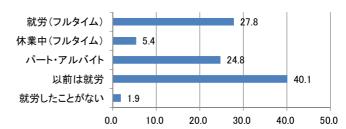
F1	回答区分 単一回答	N	%
1	保育所(園)	226	53.3
2	子育て支援センター	198	46.7
	全体	424	100.0



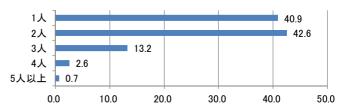
[TABLE002]				
Q1		年齢 単一回答	Ν	%
			IN	
	1	10歳代	1	0.2
	2	20歳代	71	16.8
	3	30歳代	276	65.2
	4	40歳代	70	16.5
	5	50歳代	4	0.9
	6	60歳代	1	0.2
	7	70歳以上	0	0.0
		全体	123	100.0



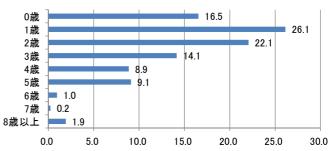
[TABLE003]			
Q2	就労の有無 単一回答	N	%
1	就労している(フルタイム)	118	27.8
2	就労している(フルタイム)が育児や介護等 で休業中	23	5.4
3	就労している(パートタイム・アルバイト)	105	24.8
4	以前は就労していたが現在は就労していない	170	40.1
5	これまで就労したことがない	8	1.9
	全体	424	100.0



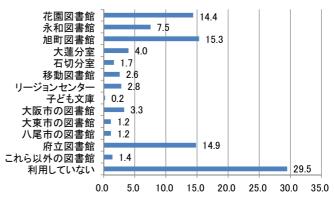
[TABLE004]				
Q3		子どもの数 単一回答	N	%
	1	1人	173	40.9
	2	2人	180	42.6
	3	3人	56	13.2
	4	4人	11	2.6
	5	5人以上	3	0.7
		全体	123	100.0



[TABLE005]			
Q4	最も下の子どもの年齢 単一回答	N	%
		IN	
1	0歳	69	16.5
2	1歳	109	26.1
3	2歳	92	22.1
4	3歳	59	14.1
5	4歳	37	8.9
6	5歳	38	9.1
7	6歳	4	1.0
8	7歳	1	0.2
9	8歳以上	8	1.9
	全体	417	100.0



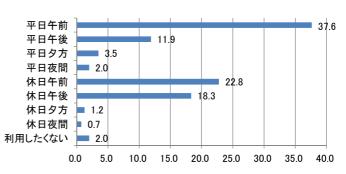
[TABLE006]			
Q5	最もよく利用する図書館 単一回答	N	%
	花園図書館	61	14.4
:	2 永和図書館	32	7.5
;	1 旭町図書館	65	15.3
	大蓮分室	17	4.0
;	石切分室	7	1.7
	移動図書館	11	2.6
•	リージョンセンターの図書コーナー	12	2.8
	子ども文庫	1	0.2
,	大阪市の図書館	14	3.3
10) 大東市の図書館	5	1.2
1	八尾市の図書館	5	1.2
1:	2 府立図書館	63	14.9
1;	これら以外の図書館	6	1.4
14	図書館を利用していない	125	29.5
	全体	424	100.0



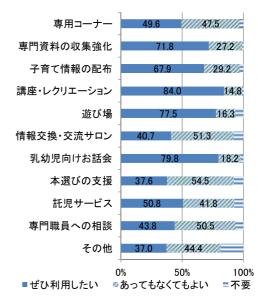
[TABLE007]			
	現在利用している市の子育て支援サービ		
Q6	ス		
	複数回答	N	%
1	母親学級•両親学級•育児教室	12	2.8
2	ファミリーサポートセンター	8	1.9
3	保育所(園)・幼稚園の園庭解放(親子で集 える場)などの事業	107	25.2
4	子育て支援センターやつどいの広場のよう な親子で集える場の提供	193	45.5
5	子育て支援センターや保育所での相談	50	11.8
6	保健センターでの相談	23	5.4
7	教育センター・教育相談室での相談	9	2.1
8	幼稚園での相談	8	1.9
9	療育センターでの相談	4	0.9
10	市で実施する子育てセミナー・講演会	4	0.9
11	休日・夜間の子育て相談ダイヤル	4	0.9
12	育児支援家庭訪問	1	0.2
13	保育所(園)での一時預り	12	2.8
14	ショートステイ	0	0.0
15	トワイライトステイ	1	0.2
16	子育て支援情報誌(子育て支援ガイドブック 「花まるぶっく」、子育てマップ、子育てプラ ス等)	32	7.5
17	子育て情報の配信(メルマガ(子育てハッピーメール)、フェイスブック等)	21	5.0
18	現在は、上記のいずれも利用していない	113	26.7
	無回答	22	5.2
	全体	424	100.0

母親/両親学級・育児教室	2.8				
ファミリーサポートセンター	- 1.9				
園庭解放			25.	2	
親子で集える場	- -				45.5
相談(支援センター・保育所)	11.8			
相談(保健センター	5.4	1			
相談(教育センター・相談室	2.1				
相談(幼稚園	1.9				
相談(療育センター	-				
子育てセミナー・講演会	-				
子育て相談ダイヤル	-				
育児支援家庭訪問	-				
保育所(園)での一時預り	· -				
休月別(園)での一時頃のショートスティ	-				
, , , , ,	4				
トワイライトスティ		1_			
子育て支援情報誌	` -l	7.5			
子育て情報の配信)			
いずれも利用していない	· _		26	5.7	
	0.0 10	0.0 20	0.0 30.	0 40.0	50.0

[TABLE008]			
Q7	子育て支援サービスの利用希望時間帯		
	単一回答	N	%
1	平日午前中	152	37.6
2	平日午後(12~16時)	48	11.9
3	平日夕方(17~19時)	14	3.5
4	平日夜間(19時以降)	8	2.0
5	休日午前中	92	22.8
6	休日午後(12~16時)	74	18.3
7	休日夕方(17~19時)	5	1.2
8	休日夜間(19時以降)	3	0.7
9	利用したくない	8	2.0
	全体	404	100.0



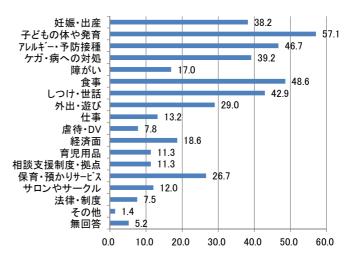
[TABLE009]					
			1	2	3
Q8	図書館で利用したい子育て支援サービス	全体	ぜひ利用 したい	あってもな くてもよい	不要
	単一回答				
1	関連資料を集めた専用コーナーの設置	383	190	182	11
		100.0	49.6	47.5	2.9
2	育児本・大型絵本等専門図書・資料の収集	397	285	108	4
	強化	100.0	71.8	27.2	1.0
3	市内の子育て情報(パンフレットやチラシ	390	265	114	11
	等)の配布	100.0	67.9	29.2	2.8
4	絵画・工作・歌・手遊び・体操等の講座・レク リエーションの開催	400	336	59	5
•		100.0	84.0	14.8	1.3
5	おもちゃを置いた遊び場の設置	405	314	66	25
		100.0	77.5	16.3	6.2
6	保護者間での情報交換・交流のためのサロ	388	158	199	31
	ンの設置	100.0	40.7	51.3	8.0
7	乳幼児向けお話会(読み聞かせ)	396	316	72	8
	すらりつじつい 85日 女(かい 万月)の と /	100.0	79.8	18.2	2.0
8	本選びの支援(レファレンス)	380	143	207	30
0	不足しのス版(レン)・レンハ)	100.0	37.6	54.5	7.9
9	保護者の本選びの間の託児サービス	388	197	162	29
9	* 体践行の本選のの間の記述リーに入		50.8	41.8	7.5
10	出産・育児に関する専門職員への相談	390	171	197	22
	山庄 日元に成りの寺川城長、707旧欧	100.0	43.8	50.5	5.6
11	その他	27	10	12	5
	C 07 IE	100.0	37.0	44.4	18.5



Q8その他の内容	年齢	就労の有無	子どもの 数	最も下の子 どもの年齢
食事も出来て、1日中過ごせる施設	30歳代	就労している(フルタイム)が育児や介護等で休業中	2人	0歳
小さな子がいるので大声をだしたりしても大 丈夫なスペース。本を少しやぶいたりしても 大丈夫なスペースーわざとやぶるのではな く小さな子に本をわたすとやぶいたりするの で。	30歳代	就労している(パートタイム・アルバイト)	3人	0歳
絵本作家さん、人形劇団などを迎えてのイベント。	30歳代	就労している(フルタイム)	1人	5歳
駅等夜遅くても利用できる図書スペース	40歳代	就労している(フルタイム)	2人	5歳
近くにたくさん作って下さい!!	40歳代	就労している(パートタイム・アルバイト)	3人	5歳
書籍の充実	30歳代	就労している(フルタイム)	2人	5歳
リフレッシュ	30歳代	就労している(フルタイム)	3人	2歳
くつをぬいであがれる場所	30歳代	以前は就労していたが現在は就労していない	2人	1歳
親向けのリフレッシュ講座	30歳代	以前は就労していたが現在は就労していない	1人	2歳

※「その他」欄にて「ぜひ利用したい」を選択した方(10名)の内容(「特に無し」を除く)

[TABLE010]				
Q9		子育でに関し図書館で充実すべき情報 複数回答	N	%
	1	妊娠・出産(健康・生活)	162	38.2
	2	子どもの体や発育	242	57.1
	3		198	46.7
	4		166	39.2
	5	障がい	72	17.0
	6	食事(離乳食・弁当等)	206	48.6
	7	しつけ・世話	182	42.9
	8	外出・遊び	123	29.0
	9	仕事(就労・キャリア継続)	56	13.2
	10	虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)	33	7.8
	11	経済面(費用や助成)	79	18.6
	12	育児用品	48	11.3
	13	相談支援制度•拠点	48	11.3
	14	保育・預かりサービス	113	26.7
	15	サロンやサークル	51	12.0
	16	法律・制度	32	7.5
	17	その他	6	1.4
		無回答	22	5.2
<u> </u>		全体	424	100.0



Q9_17 その他	年齢	就労の有無	子どもの 数	最も下の子 どもの年齢
司書さん以外←人形劇団、絵本作家さん、 飼育員さんetc. の方によるイベント	30歳代	就労している(フルタイム)	1人	5歳
休日に講座が有れば利用し易いです。	40歳代	就労している(パートタイム・アルバイト)	1人	2歳
子どもが分かりやすいような本の紹介や配 列	30歳代	就労している(フルタイム)	2人	2歳
子育て中に落ち入りやすい保ゴ者のメンタ ルケアーについて	40歳代	就労している(フルタイム)	2人	4歳
マンガ アニメ	30歳代	就労している(パートタイム・アルバイト)	2人	3歳
まんべんなくあるのが良いと思います。	30歳代	就労している(パートタイム・アルバイト)	2人	3歳

^{※「}その他」欄を選択した方(6名)の内容

市立図書館に関するアンケート ご協力のお願い

平素より、本市の図書館事業にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市は、より多くの皆様に利用される図書館をめざし、今年度「図書館基本構想」 を策定しており、その一環として市民の皆様の要望等を伺いたく、アンケート調査を実施 することとなりました。

皆様方の御意向を新しい図書館サービスに反映するため、ご多忙中、大変恐縮ですが、 本調査の主旨をご理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年7月

東大阪市教育委員会社会教育部図書館総務室

回答頂くあなたのことについてお伺いします。【それぞれ、数字に1つ〇】

Q1 年齢 【数字に1つO】		2. 20 歳代 6. 60 歳代	3. 30 歳代 7. 70 歳代	4. 40 歳代 8. 80 歳以上
Q2 性別	1. 男性	2. 女性		
Q3 職業 【数字に1つO】	1. 会社員 4. パート・アルバイ 7. 無職	2. 公務員・ ト 5. 家事専業 8. その他	—	3. 自営・自由業 6. 学生

あなたは、一ヶ月に本や雑誌を平均何冊よみますか。【それぞれ、数字に1つO】

Q4 一ヶ月の本	1. 1~2冊	2. 3~5冊	5. ほとんど読まない
の冊数	3. 6~1 0冊	4. 1 1冊以上	
Q5 一ヶ月の雑	1. 1~2冊	2. 3~5冊	5. ほとんど読まない
誌の冊数	3. 6~10冊	4. 1 1冊以上	

あなたが読む本や雑誌は、どのように入手・利用していますか。【それぞれ、数字に1つO】

Q6 本の入手	1. 図書館で借りる 3. 書店・コンビニ等で買う	2. 家族·友人等から借りる 4. その他の方法	5.ほとんど読まない
Q7 雑誌の入手	1. 図書館で借りる 3. 書店・コンビニ等で買う	2. 家族·友人等から借りる 4. その他の方法	5. ほとんど読まない

Q8. あなたは、知りたいことがある時、主にどのように調べていますか。【あてはまる数字全てに〇】

1. 本や雑誌を買って調べる2. 手持ちの資料で調べる3. 図書館の資料で調べる4. 学校や職場の資料で調べる5. 官公庁・大学・研究機関等で調べる6. インターネットで検索7. 周りの知っている人に聞く8. その他

裏面に続く

Q9. あなたが最もよく利用する図書館はどちらですか。【数字に1つO】

- 1. 花園図書館
- 2. 永和図書館
- 3. 旭町図書館

- 4. 大蓮分室
- 5. 石切分室
- 6. 移動図書館
- 7. リージョンセンターの図書コーナー
 - 9. 大東市の図書館
- 8. 大阪市の図書館 10. 八尾市の図書館
- 11. 府立図書館
- 12. これら以外の図書館

13. 図書館を利用していない

Q 12

Q10. どれくらいの頻度で利用していますか。【数字に1つO】

- 1. ほぼ毎日
- 2. 週に1~2回
- 3. 半月(2 週間)に1回

- 4. 月 1 回程度
- 5. 年に数回程度

Q11. 図書館をどのように利用していますか。【ょく使うものを2つまでO】

- 1. 本・雑誌・視聴覚資料を借りる
- 2. 館内で新聞を読む
- 3. 館内で本・雑誌を読む
- 4. 館内で視聴覚資料を視聴
- 5. 館内の資料で調べもの
- 6. 館員に調べものを相談
- 7. 椅子・机などを利用
- 8. おはなし会などの行事に参加

9. その他(

Q12. 市の図書館でどのようなサービスを今後充実・強化すべきと思いますか。【5つまで数字にO】

- 1.本の種類・数を増やす
- 3.CD やビデオ等の種類・数を増やす
- 5.持参の機器でのインターネット利用環境
- 7.開館時間の延長
- 9.貸出期間の延長
- 11.図書館以外での貸出・返却
- 13.返却用ポストの増加
- 15.専門職員による資料探しの支援(相談等)
- 17.高齢者・障害者等へのサービス
- 19.児童向けサービス(読み聞かせ等)
- 21.ビジネスに関する情報提供
- 23.その他(

- 2.雑誌の種類・数を増やす
- 4.インターネットが利用できるパソコンの設置
- 6.休館日の減少
- 8.貸出冊数を増やす
- 10.貸出・返却の自動貸し出し機の導入
- 12.閲覧席(席数、スペースの広さ)
- 14.図書館の活用方法に関する講座等の開催
- 16.子育てに関する情報提供
- 18.中高生向けの資料を増やす
- 20. 文化・集会活動(サロン・イヘント・講座・レク等)
- 22.在住外国人向けの資料提供

Q13. 市の図書館でどのような資料を今後充実すべきと思いますか。【2つまで数字にO】

- 1. 新刊本
- 2. 雑誌
- 3. 実用書
- 4. 専門書
- 5. 郷土資料

- 6. 行政資料
- 7. 絵本·児童書 8. 電子図書
- 9. 障害者用音訳
- 10. 視聴覚資料
- 11. 調べ物用図書(辞典・地図・年表・便覧・新聞縮刷版等) 12. その他(

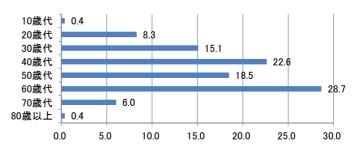
市立図書館に関するアンケート

調査概要

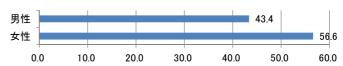
■調査方法	自記式調査票への記入・提出
■調査対象	東大阪市民(住民基本台帳より1001人を無作為抽出)
■実施期間	2014年7月25日(金) ~ 2014年8月8日(金)
■有効回答数	266(回答率としては26.8%(267/996))

集計結果

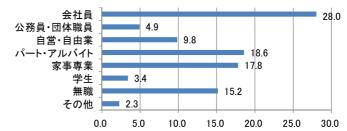
[TABLE001]			
Q1	年齢 単一回答	N	%
		111	
l I	10歳代	I	0.4
2	20歳代	22	8.3
3	30歳代	40	15.1
4	40歳代	60	22.6
5	50歳代	49	18.5
6	60歳代	76	28.7
7	70歳代	16	6.0
8	80歳以上	1	0.4
	全体	265	100.0



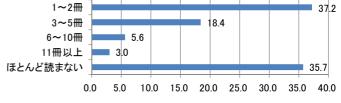
[TABLE002]			
Q2	性別		
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	単一回答	N	%
	男性	108	43.4
2	9 女性	141	56.6
	全体	249	100.0



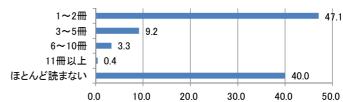
[TABLE003]			
Q3	職業		
\$3	単一回答	N	%
1	会社員	74	28.0
2	公務員・団体職員	13	4.9
3	自営・自由業	26	9.8
4	パート・アルバイト	49	18.6
5	家事専業	47	17.8
6	学生	9	3.4
7	無職	40	15.2
8	その他	6	2.3
	全体	264	100.0



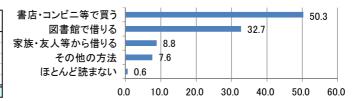
[TABLE004]			
Q4	1ヶ月に読む本の平均冊数		
, and the second	単一回答	N	%
1	1~2冊	99	37.2
2	3~5冊	49	18.4
3	6~10冊	15	5.6
4	11冊以上	8	3.0
5	ほとんど読まない	95	35.7
	全体	266	100.0



[TABLE005]			
Q5	1ヶ 月に読む雑誌の平均冊数 単一回答	N	%
1	1~2冊	113	47.1
2	3~5冊	22	9.2
3	6~10⊞	8	3.3
4	11冊以上	1	0.4
5	ほとんど読まない	96	40.0



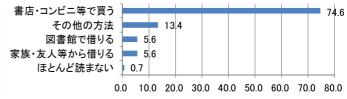
[TABLE006]			
Q6	本の入手方法		
40	単一回答	N	%
1	図書館で借りる	56	32.7
2	家族・友人等から借りる	15	8.8
3	書店・コンビニ等で買う	86	50.3
4	その他の方法	13	7.6
5	ほとんど読まない	1	0.6
	全体	171	100.0
シロ***ロナ ロルニア[1	エレノ じきナナバハバ おかずししょナイバスタン		



※母数は、Q4にて「ほとんど読まない」以外を選択した方(171名)

全体

[TABLE007]			
Q7	雑誌の入手方法		
٧,	単一回答	N	%
1	図書館で借りる	8	5.6
2	家族・友人等から借りる	8	5.6
3	書店・コンビニ等で買う	106	74.6
4	その他の方法	19	13.4
5	ほとんど読まない	1	0.7
	全体	142	100.0



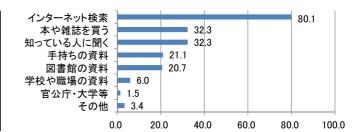
※母数は、Q5にて「ほとんど読まない」以外を選択した方(142名、無回答2名除く)

240

100.0

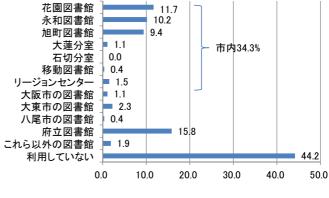
[TABLE008]

[IVELEGOO]			
Q8	調べる手段		
8	複数回答	N	%
1	本や雑誌を買って調べる	86	32.3
2	手持ちの資料で調べる	56	21.1
3	図書館の資料で調べる	55	20.7
4	学校や職場の資料で調べる	16	6.0
5	官公庁・大学・研究機関等で調べる	4	1.5
6	インターネットで検索	213	80.1
7	周りの知っている人に聞く	86	32.3
8	その他	9	3.4
	全体	266	100.0



[TABLE009]

[IVELLOOO]			
Q9	最もよく利用する図書館 単一回答	N	%
1	花園図書館	31	11.7
2	永和図書館	27	10.2
3	旭町図書館	25	9.4
4	大蓮分室	3	1.1
5	石切分室	0	0.0
6	移動図書館	1	0.4
7	リージョンセンターの図書コーナー	4	1.5
8	大阪市の図書館	3	1.1
9	大東市の図書館	6	2.3
10	八尾市の図書館	1	0.4
11	府立図書館	42	15.8
12	これら以外の図書館	5	1.9
13	図書館を利用していない	117	44.2
	全体	265	100.0



[TABLE010]

Q10	図書館の利用頻度		
Q10	単一回答	N	%
1	ほぼ毎日	0	0.0
2	週に1~2回	10	6.8
3	半月(2週間)に1回	29	19.7
4	月1回程度	25	17.0
5	年に数回程度	83	56.5
	全体	147	100.0

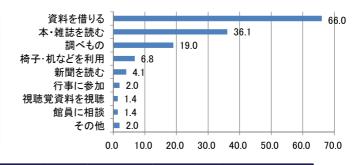
※母数は、Q9にて「図書館を利用していない」以外を選択した方(148名)

ほぼ毎日 0.0 週に1~2回 6.8 半月(2週間)に1回 19.7 月1回程度 17.0 年に数回程度 56.5 0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0

[TABLE011]

Q11	図書館の主な利用内容		
Q11	複数回答(2つまで)	Ν	%
1	本・雑誌・視聴覚資料を借りる	97	66.0
2	館内で新聞を読む	6	4.1
3	館内で本・雑誌を読む	53	36.1
4	館内で視聴覚資料を視聴	2	1.4
5	館内の資料で調べもの	28	19.0
6	館員に調べものを相談	2	1.4
7	椅子·机などを利用	10	6.8
8	おはなし会などの行事に参加	3	2.0
9	その他	3	2.0
	全体	147	100.0

※母数は、Q9にて「図書館を利用していない」以外を選択した方(148名)

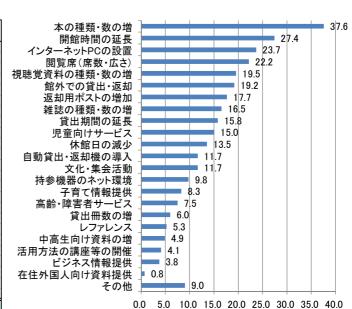


Q11その他の内容	年齢	性別	職業	1ヶ月に読む本の平 均冊数	最もよく利用する図 書館	図書館の利用頻度
子どもがいるので子どもコーナー	30歳代	男性	会社員	ほとんど読まない	府立図書館	年に数回程度
子供の絵本を借りる	30歳代	女性	会社員	ほとんど読まない	旭町図書館	年に数回程度
家へ借りる	70歳代	男性	無職	3~5冊	花園図書館	半月(2週間)に1回

※「その他」欄を選択した方(3名)の内容

[TABLE012]

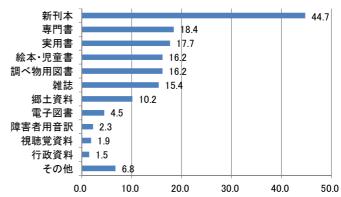
Q12	今後充実・強化すべきサービス		
Q12	複数回答(5つまで)	N	%
1	本の種類・数を増やす	100	37.6
2	雑誌の種類・数を増やす	44	16.5
3	CDやビデオ等の種類・数を増やす	52	19.5
4	インターネットが利用できるパソコンの設置	63	23.7
5	持参の機器でのインターネット利用環境	26	9.8
6	休館日の減少	36	13.5
7	開館時間の延長	73	27.4
8	貸出冊数を増やす	16	6.0
9	貸出期間の延長	42	15.8
10	貸出・返却の自動貸出機の導入	31	11.7
11	図書館以外での貸出・返却	51	19.2
12	閲覧席(席数、スペースの広さ)	59	22.2
13	返却用ポストの増加	47	17.7
14	図書館の活用方法に関する講座等の開催	11	4.1
15	専門職員による資料探しの支援(相談等)	14	5.3
16	子育てに関する情報提供	22	8.3
17	高齢者・障害者等へのサービス	20	7.5
18	中高生向けの資料を増やす	13	4.9
19	児童向けサービス(読み聞かせ等)	40	15.0
20	文化・集会活動(サロン・イヘント・講座・レク等)	31	11.7
21	ビジネスに関する情報提供	10	3.8
22	在住外国人向けの資料提供	2	0.8
23	その他	24	9.0
	無回答	25	9.4
	全体	266	100.0



Q12その他の内容	年齢	性別	職業	1ヶ月に読 む本の平 均冊数	最もよく利用する図 書館	図書館の 利用頻度
「ももっこ」に子どもの本があるのはいい、大人用は借りにいくのが遠いです。	20歳代	男性	公務員· 団体職員	1~2冊	これら以外の図書館	年に数回 程度
新しい本を多く取り入れる。「今オススメはこちら!」「受賞作品」 「気分を上げる本」など、特集をし、注目を集めるようにする。借り やすくなる。	20歳代	女性	会社員	1~2冊	大東市の図書館	年に数回 程度
DVDの種類、数を増やす	50歳代	男性	会社員	3~5冊	府立図書館	月1回程 度
科学技術文献・マーケティング資料の検索、複写(特許外)	50歳代	男性	会社員	3~5冊	府立図書館	年に数回 程度
美しい字の書き方講座、など興味をひくもの	50歳代	女性	家事専業	ほとんど 読まない	図書館を利用していない	
続物の小説などあるが目が疲れるので字の大きく読みやすい本 を。	60歳代	男性	無職	ほとんど 読まない	図書館を利用していない	
公共の場での沈黙(親子の声がうるさいと感じます)	40歳代	女性	パート・ア ルバイト	1~2冊	旭町図書館	半月(2週 間)に1回
広い自習室	50歳代	男性	会社員	1~2冊	図書館を利用していない	
いすが少ないので、増やしてほしい。	60歳代	男性	自営·自 由業	1~2冊	永和図書館	半月(2週 間)に1回
閲覧席、時間つぶしと思われる人(中高年の男性)が多いので、 座って読む気がしない	60歳代	男性	パート・ア ルバイト	6~10冊	花園図書館	半月(2週 間)に1回
冷暖房、ウォータークーラーの設置	60歳代	男性	無職	ほとんど 読まない	図書館を利用してい ない	
布施の図書館の、駐車場の利用サービス	30歳代	女性	その他	1~2∰	永和図書館	年に数回 程度
テレビによるPR	40歳代	男性	自営·自 由業	ほとんど 読まない	図書館を利用していない	
図書館からの情報(わかりにくい)	40歳代	女性	自営·自 由業	1~2冊	府立図書館	年に数回 程度
近くにある図書館のことをあまり知りません、広報して下さい。	50歳代	女性	家事専業	ほとんど 読まない	図書館を利用してい ない	
武雄市の図書館のようにカフェを併設、犬をつれて入れる所を作る	40歳代	男性	会社員	1~2冊	大阪市の図書館	年に数回 程度
喫茶・軽食店の併設	70歳代	男性	自営·自 由業	1~2∰	図書館を利用していない	
閉鎖	40歳代	男性	公務員· 団体職員	ほとんど 読まない	図書館を利用していない	

※「その他」欄を選択した方(24名)の内容(「特に無し」「利用していないのでわからない」等を除く)

[TABLE013]			
Q13	今後充実すべき資料		
Q10	複数回答	N	%
1	新刊本	119	44.7
2	雑誌	41	15.4
3	実用書	47	17.7
4	専門書	49	18.4
5	郷土資料	27	10.2
6	行政資料	4	1.5
7	絵本・児童書	43	16.2
8	電子図書	12	4.5
9	障害者用音訳	6	2.3
10	視聴覚資料	5	1.9
11	調べ物用図書(辞典・地図・年表・便覧・新聞 縮刷版等)	43	16.2
12	その他	18	6.8
	無回答	27	10.2
	全体	266	100.0



Q13その他の内容	年齢	性別	職業	1ヶ月に読む本の平 均冊数	最もよく利用する図 書館	図書館の利用頻度
医療	40歳代	女性	会社員	ほとんど読まない	リージョンセンターの 図書コーナー	年に数回程度
参考書	40歳代	女性	公務員· 団体職員	3∼5冊	図書館を利用していない	
図書館を利用していないので分らないけ ど、より多くの本を幅広く置いて下さい。	50歳代		その他	3∼5冊	図書館を利用してい ない	
DVD	50歳代	男性	会社員	3∼5冊	府立図書館	月1回程度
ノベルス・アニメ	60歳代	男性	会社員	3∼5冊	図書館を利用してい ない	
昔の文庫本新潮、角川など	60歳代	男性	無職	3∼5冊	大蓮分室	半月(2週間)に1回
洋書(各国語)	60歳代	男性	無職	ほとんど読まない	図書館を利用していない	
子供、障害者、高齢者に係る物。健康に関 するもの。新刊本は読んでみたい。	60歳代	女性	家事専業	1~2冊	府立図書館	年に数回程度
字の大きな本	80歳以上	男性	無職	3∼5冊	花園図書館	週に1~2回
今のままで充分です。	60歳代	男性	自営·自 由業	1~2冊	花園図書館	年に数回程度
今のままで良いと思います	60歳代	男性	無職	ほとんど読まない	図書館を利用していない	
閉鎖	40歳代	男性	公務員· 団体職員	ほとんど読まない	図書館を利用してい ない	

※「その他」欄を選択した方(18名)の内容(「特に無し」「(利用していないので)わからない」等を除く)

図書館施設

(1)施設

≪花園図書館≫

開設:1992 (平成4) 年6月

** 1		и н ,		100000000000000000000000000000000000000			
所	在	地	吉田4丁目7番20号	[施設内容]			
敷	地 面	積	2,719.46 m ²	●一般開架、児童開架、新聞・雑誌、郷土・行政資料、			
延~	ベ床面	積	2,301.87 m ²	ビデオ・CD、司馬遼太郎コーナー、録音室、			
構		造	鉄筋コンクリート	対面朗読室、視聴覚室 その他			
1再		坦	(地上3階/地下2階)				
	開館 時	間	:午前9時~午後9時(但し、土・日曜日及び国民の祝日等(※)は午後5時まで)				
O 1	木 館	日	: 毎週火曜日(但し、その日が国民の祝休等の場合は開館し後日振替休館)				
	図書整理期間(21~25年度実績4日間)、12月29日~1月4日						

※「国民の祝日に関する法律」で規定する休日。以下同様。

≪永和図書館(暫定施設)≫

開設:2012 (平成24) 年12月

	73 · 1 ·	1 F.D	(L)CALIST,	•		
所	在	地	長堂1丁目8番37号	[施設内容]		
			ヴェル・ノール布施 3 F	●一般開架、児童開架、新聞	・雑誌、	郷土・行政資料、その他
延	ベ床面	i 積	6 9 7.3 4 m² (共用通路含む)			
構		造	鉄骨鉄筋コンクリート(複合商業施設)			
	BB V구 마1	- 111	大兴 ort 大兴 ort //p > 1		•/\ \\ \	// = ## 3: -a\

○ 開 館 時 間 :午前9時~午後9時(但し、土・日曜日及び国民の祝日等(※)は午後5時まで)

○ 休 館 日 : 毎週月曜日、毎月月末日 (但し、その日が国民の祝休等の場合は開館し後日振替休館)

図書整理期間(21~25年度実績4日間)、12月29日~1月4日

※布施市立図書館開設:1947(昭和22)年11月 ※永和図書館開設:1957(昭和32)年2月

≪旭町図書館≫

開設:1997 (平成9) 年1月

	**/-		• •	1.4121
Ī	所 在	地	旭町1番1号	[施設内容]
L			(旭町庁舎1階部分)	●一般開架、児童開架、新聞・雑誌、郷土・行政資料、CD、
3	延べ床	面積	8 8 0 . 0 m ²	安岡正篤コーナー その他
Į,	構	造	鉄筋コンクリート	
	1世	但	(地上3階/地下1階)	
(〇 開 館	時間	:午前10時~午後5時(水・カ	木曜日は午後7時まで)

○休 館 日:毎週月曜日、国民の祝日等、毎月月末日、

図書整理期間(21~25年度実績4日間)、12月29日~1月4日

≪石切分室≫

開設:1984 (昭和59) 年10月

所	/ :	地	北石切町1番7号		毎週水・日曜日
ולו	在	걘	(石切公民分館内)	○開館日及び	(但し、国民の祝日等、月末日、年末年始は除く)
ZīL	ベ床面	: 往	9 0 m²	開館時間	水曜日:午前10時~午後5時
処	,	」但			日曜日:午前10時~午後4時

≪大蓮分室≫

開設:1990 (平成2) 年11月

所 在 地 大蓮北4丁目3番25号	毎週水・木・土曜日
敷 地 面 積 1,601.87㎡	○開館日及び (但し、国民の祝日等、月末日、年末年始は除く)
延べ床面積 548.74㎡	開館時間 各曜日とも、午前10時~午後5時
構 造 鉄 骨 平 屋	

≪移動図書館≫

開設:1966(昭和41)年6月

車	名	図書積載冊数 及び 設備	購入年	
キキ	ョウ号	3,000冊、リフト	1996年	○市内46ステーションを月2回巡回
ウ	メ 号	3,000冊、リフト	1999年	

組織・機構 (平成26年4月1日現在)

教育委員会事務局

※平成15年4月1日組織改編

社会教育部

図書館総務室

参事【1】 室長【1】

総括主幹【1】 係員【1】 再任用 【1】

- (1)図書館網の整備に関すること
- (2)図書館事業の企画及び調査研究、連絡調整に関すること
- (3) 市立図書館の管理運営の総括に関すること

花園図書館

館長【1】総括主幹【1】主幹【1】主査【1】

再任用【2】 嘱託【17】

- (1) 花園図書館の資料の収集及び整備に関すること
- (2) 花園図書館の資料の貸出及び閲覧に関すること
- (3) 花園図書館の行事等の企画、立案及び実施に関すること
- (4) 花園図書館に係る他の図書館との連絡調整及び資料の相互利用に関すること
- (5) 花園図書館に係る読書会等の団体の育成に関すること。
- (6)図書館協議会に関すること。

永和図書館

部次長【1】 館長【1】 総括主幹【3】

再任用【5】 嘱託【14】 アルバイト【1】

- (1) 永和図書館及び大蓮分室の資料の収集及び整備に関すること
- (2) 永和図書館及び大蓮分室の資料の貸出及び閲覧に関すること
- (3) 永和図書館及び大蓮分室の行事等の企画、立案及び実施に関すること
- (4) 永和図書館に係る他の図書館等との連絡調整及び資料の相互利用に関すること
- (5) 自動車文庫の資料の収集及び整備に関すること
- (6) 自動車文庫の資料の貸出及び閲覧に関すること
- (7) 永和図書館に係る読書会等の団体の育成に関すること

大蓮分室

- 移動図書館

旭町図書館

館長【1】

副主幹【1】 主任【1】 再任用【2】 嘱託【7】 アルバイト【1】

- (1)旭町図書館及び石切分室の資料の収集及び整備に関すること
- (2) 旭町図書館及び石切分室の資料の貸出及び閲覧に関すること
- (3) 旭町図書館及び石切分室の行事等の企画、立案及び実施に関すること
- (4) 旭町図書館に係る他の図書館等との連絡調整及び資料の相互利用に関すること
- (5) 旭町図書館に係る読書会等の団体の育成に関すること

石切分室

()内は司書有資格者・兼務者除く

	職員数	非常勤	職員数	合 計
	正職員・再任用	嘱託	アルバイト	
図書館総務室	5 (1)			5 (1)
花園図書館	6 (2)	17 (17)		23 (19)
永和図書館	10 (3)	14 (14)	1	25 (17)
旭町図書館	5 (1)	7 (7)	1	13 (8)
合 計	26 (7)	38 (38)	2	66 (45)

予算・決算

(1) 平成25年度 市の一般会計当初予算及び図書館の当初予算

内容	市の当初予算	図書館の	内	訳	備考
館名	(一般会計)	予算総額	資料購入費	その他	畑 与
図書館総務室		51,308	-	51,308	・資料購入費:花園図書 館に家庭文庫の資料購 み 豊(686千円)を含む。
花園図書館		70,758	21,786	48,972	入費(686千円)を含む。
永和図書館	197, 334	63,760	26,700	37,060	
旭町図書館		20,248	15,200	5,048	
合 計		206,074	63,686	142,388	

(2) 図書館の決算額の推移

(千円)

								(TD)
年 度	図書館	決算総額	資料購入費	図書費	内 雑誌	訳 視聴覚資料	新聞等	その他
	図書館総務室	45,144	-	_	-	_	-	45,144
	花園図書館	55,922	21,383	17,894	2,003	800	686	34,539
23年度	永和図書館	43,880	27,098	22,428	2,602	612	1,456	16,782
	旭町図書館	19,346	15,196	11,467	1,238	1,648	842	4,149
	合 計	164,292	63,677	51,789	5,843	3,060	2,984	100,615
	図書館総務室	104,380	-	-	-	-	_	104,380
	花園図書館	40,660	21,386	17,994	1,972	789	631	19,274
24年度	永和図書館	41,223	27,098	22,381	2,552	707	1,458	14,125
	旭町図書館	19,067	15,195	11,593	1,228	1,721	653	3,872
	合 計	205,330	63,679	51,968	5,752	3,217	2,742	141,651
	図書館総務室	48,794	1	ı	ı	-	_	48,794
	花園図書館	67,469	21,782	17,967	1,978	766	1,071	45,687
25年度	永和図書館	61,148	26,697	22,569	2,361	726	1,041	34,451
	旭町図書館	19,975	15,194	12,073	1,232	1,155	734	4,781
	合 計	197,386	63,673	52,609	5,571	2,647	2,846	133,713

[※]花園資料購入費には、家庭文庫費を含む。 ※図書費=一般書+児童書+家庭文庫 / 新聞等=新聞+判例+その他。

[※]平成23年度花園/永和/旭町図書館の決算、その他欄に臨時交付金(¥17,920,643-)を含む。

[※]平成24年度図書館総務室決算額には、永和図書館(暫定施設)の移転に伴う図書館整備経費 (¥69, 709, 698-) を含む。

平成23年度(2011)利用統計

	花園図書館	永和図書館	旭町図書館	大蓮分室	石切分室	移動図書館	計
登録者数(人)	14, 169	8, 819	10, 248	2, 478	982	2, 153	38, 849
(内、児童) 注 1	(4, 046)	(1, 785)	(2, 041)	(849)	(318)	(698)	(9, 737)
貸出件数(件)	650, 956	471, 276	462, 331	145, 872	65, 401	203, 894	1, 999, 730
(内、児童書)	(225, 035)	(152, 498)	(137, 256)	(68, 925)	(27, 209)	(106, 358)	(717, 281)
貸出人数(人)	137, 737	102, 578	120, 543	27, 276	14, 409	23, 320	425, 863
(内、児童)注2	(27, 896)	(16, 087)	(17, 801)	(7, 952)	(3, 652)	(6, 041)	(79, 429)
予約入力数(件)	68, 758	86, 175	60, 183	20, 481	14, 145	52, 079	301, 821
(内、Web)	(27, 463)	(37, 661)	(23, 126)	(7, 916)	(6, 810)	(5, 559)	(108, 535)
開館日数	285	284	284	143	95	_	_
蔵書件数(件)	347, 311	182, 826	124, 775	58, 549	22, 555	32, 349	768, 365
(内、児童)	(103, 167)	(54, 353)	(35, 592)	(24, 533)	(9, 478)	(14, 716)	(241, 839)
(内、CD等視聴覚資料)	(4, 137)	(968)	(9, 394)	(0)	(0)	(0)	(14, 499)

(団体)

		
	団体数	貸出冊数
文庫	13	19, 588
•		m
	団体数	貸出冊数
読書会	1	120

		巻
朗読ボランティア	団体数	録音図書数
やまびこ	1	6, 295

	団体数
その他	98

※朗読ボランティア「やまびこ」製作の録音図書数(テープ巻数)は、累積数。

平成24年度(2012)利用統計

	花園図書館	永和図書館	旭町図書館	大蓮分室	石切分室	移動図書館	計
登録者数(人)	14, 222	11, 289	10, 053	2, 517	1, 010	1, 992	41, 083
(内、児童)注 1	(3, 729)	(2, 137)	(1, 971)	(822)	(317)	(615)	(9, 591)
貸出件数(件)	677, 835	438, 087	438, 413	147, 997	65, 227	192, 887	1, 960, 446
(内、児童書)	(228, 700)	(142, 305)	(126, 205)	(66, 209)	(25, 648)	(98, 758)	(687, 825)
貸出人数(人)	147, 772	98, 115	114, 434	27, 985	14, 706	22, 475	425, 487
(内、児童)注2	(27, 896)	(15, 117)	(16, 714)	(7, 408)	(3, 449)	(5, 186)	(75, 770)
予約入力数(件)	80, 233	85, 298	61, 602	21, 682	15, 552	51, 317	315, 684
(内、Web)	(41, 766)	(46, 901)	(32, 019)	(10, 472)	(9, 326)	(8, 029)	(148, 513)
開館日数	284	245	284	143	96	_	_
蔵書件数(件)	358, 104	168, 789	125, 678	55, 197	22, 835	36, 519	767, 122
(内、児童)	(106, 820)	(54, 708)	(35, 824)	(24, 095)	(9, 782)	(16, 132)	(247, 361)
(内、CD等視聴覚資料)	(4, 420)	(1, 257)	(8, 921)	(0)	(0)	(0)	(14, 598)

(団体)

			1112
		団体数	貸出冊数
文	庫	13	19, 628
		-	
		団体数	貸出冊数
読書会		1	120

		- 巻
朗読ボランティア	団体数	録音図書数
やまびこ	1	6, 374

	<u>団体数</u>
その他	98

※朗読ボランティア「やまびこ」製作の録音図書数(テープ巻数)は、累積数。

平成25年度(2013)利用統計

	花園図書館	永和図書館	旭町図書館	大蓮分室	石切分室	移動図書館	計
利用者数(人) <i>(内、児童)注 1</i>	14, 231 <i>(3, 732)</i>	13, 136 <i>(2, 374)</i>	9, 797 <i>(1, 901)</i>	2, 317 <i>(705)</i>	962 <i>(282)</i>	1, 831 <i>(494)</i>	42, 274 <i>(9, 488)</i>
貸出件数(件) <i>(内、児童書)</i>	671, 592 <i>(218, 814)</i>	519, 992 <i>(164, 473)</i>	413, 950 <i>(119, 846)</i>	137, 164 <i>(62, 705)</i>	54, 985 <i>(18, 771)</i>	166, 257 <i>(78, 479)</i>	1, 963, 940 <i>(663, 088)</i>
貸出人数(人) <i>(内、児童)注2</i>	150, 164 <i>(26, 320)</i>	126, 354 <i>(16, 771)</i>	108, 111 <i>(15, 026)</i>	26, 521 <i>(6, 802)</i>	12, 322 <i>(2, 101)</i>	19, 784 <i>(3, 748)</i>	443, 256 <i>(70, 768)</i>
予約入力数 (件)	86, 952	101, 252	59, 097	21, 892	12, 976	46, 909	329, 078
(内、Web)	(44, 298)	(56, 121)	(32, 127)	(11, 240)	(8, 162)	(10, 179)	(162, 127)
開館日数	288	285	287	147	95	_	_
蔵書件数(件) <i>(内、児童)</i>	380, 828 <i>(91, 678)</i>	118, 749 <i>(32, 892)</i>	127, 016 <i>(36, 971)</i>	75, 265 <i>(43, 351)</i>	22, 591 <i>(9, 689)</i>	36, 130 <i>(16, 255)</i>	760, 579 <i>(230, 836)</i>
(内、CD等視聴覚資料)	(4, 860)	(1, 485)	(9, 175)	(0)	(0)	(0)	(15, 520)

(団体)

		団体数	貸出冊数
文	庫	13	20, 177
		-	m

	団体数	貸出冊数
読書会	1	120

朗読ボランティア	団体数	録音図書数
やまびこ	1	6, 415

	団体数
その他	184

注1) 登録者数は、当該年度内に1回以上の利用があった利用者数。 注2) 予約カード受付分のうち、所蔵資料に対する予約入力件数。 ※花園図書館蔵書冊数の(内児童)には、家庭文庫の特別貸出冊数を含む。 ※平成22年6月よりWEB予約を開始。

利 用 状 況

(1) 平成25年度 各 種 指 標

		人	╗	500,370 人	平成26年3月31日現在
※ 1	2	利 用 者 数	数	42, 274 人	年度内の有効登録者数
	3	貸出件数	数	1,963,940 件	
	4	蔵書資料数	数	760,579 件	図書、雑誌、視聴覚資料
	5	年間購入冊数	数	43, 055 ₩	図書等(雑誌・新聞等は除く)
	6	資 料	費	63,673 千円	図書、雑誌、視聴覚資料、 新聞等
	7	図書	費	52,609 千円	図書
※ 2	8	図書館運営費	費	438, 398 千円	人件費を含む

市民利用率	②利用者数/①人口×100	=	8. 4	%
利用者1人当りの貸出件数	③貸出件数/②利用者数	=	46.5	件
市民1人当りの貸出件数	③貸出件数/①人口	=	3. 9	件
市民1人当り蔵書資料数	④蔵書資料数/①人口	=	1.5	件
市民1人当りの資料費	⑥資料費/①人口	=	127. 3	円
市民1人当りの図書費	⑦図書費/①人口	=	105. 1	円
市民1人当りの図書館費	⑧図書館運営費/①人口	=	876. 1	円
購入図書の平均単価	⑦図書費/⑤年間購入冊数	=	1, 221. 9	円/冊
蔵 書 回 転 率	③貸出件数/④蔵書資料数	=	2. 6	回/件
市民1人当りのサービス効果		=	3, 919. 8	円

^{※1} 当該年度内で1回でも利用のあった登録者の数。

(平均単価×③貸出件数-8図書館運営費) /①人口

^{※2} 図書館運営費=人件費(図書館費)+教育総務事務局費+総務管理一般管理費+図書館費

^{%3} 図書館の貸出サービスを、図書館がなくて市民1人ひとりがその図書を購入したものと仮定して 金額に換算したもの。

平成25年度 分類別蔵書数

	館	名	花園図	書館	永和図	書館	旭町図	書館	石切	分室	大蓮:	分室	移動図	書館
分	類		蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%		構成比%
一般書		記	6, 975	2. 8%	1, 489	1. 9%	1, 336		101	0.8%	312	1.0%	159	0. 9%
	1:哲	学	12, 645	5.0%	3, 232	4. 2%	3, 636	4. 8%	378	3. 1%	995	3.3%	587	3. 2%
	2:歴	史	18, 800	7. 5%	5, 951	7. 7%	6, 234	8.3%	661	5. 4%	2, 193	7. 3%	823	4. 4%
	3:社会	科学	30, 028	12.0%	7, 072	9. 2%	8, 006	10. 7%	732	6.0%	2, 591	8.6%	720	3. 9%
	4:自然	科学	13, 254	5. 3%	3, 696	4.8%	5, 061	6.8%	596	4. 9%	1, 495	5. 0%	788	4. 2%
	5:技	術	18, 058	7. 2%	7, 349	9. 5%	7, 855	10. 5%	1, 578	13. 0%	3, 114	10. 4%	3, 442	18.6%
	6:産	業	8, 154	3. 3%	1, 804	2. 3%	2, 417	3. 2%	282	2. 3%	952	3. 2%	459	2. 5%
	7:芸	術	20, 595	8. 2%	7, 798	10. 1%	10, 607	14. 1%	1, 497	12. 3%	3, 158	10. 5%	2, 728	14. 7%
	8: 言	語	3, 942	1. 6%	1, 234	1.6%	1, 248	1. 7%	126	1.0%	458	1. 5%	79	0. 4%
	9:文	学	118, 129	47. 1%	37, 480	48.6%	28, 577	38. 1%	6, 233	51. 2%	14, 817	49.3%	8, 763	47. 2%
	/\ j	<i>計</i>	<i>250, 580</i>	<i>65. 8%</i>	77, 105	<i>64. 9%</i>	74, 977	<i>59. 0%</i>	12, 184	<i>53. 9%</i>	30, 085	<i>40.0%</i>	18, 548	<i>51. 3%</i>
児 童 書		記	1, 130	1. 0%	238	0. 7%	296	0.8%	48	0. 5%	182	0. 4%	53	0. 3%
	1:哲	学	1, 232	1. 1%	367	1. 1%	361	1.0%	110	1. 1%	312	0. 7%	245	1. 5%
	2:歴	史	3, 226	2.9%	894	2. 7%	1, 221	3. 3%	249	2. 6%	1, 349	3. 1%	196	1. 2%
	3:社会	科学	2, 511	2. 2%	975	3.0%	1, 104	3.0%	275	2.8%	1, 352	3. 1%	173	1. 1%
		科学	6, 335	5. 7%	1, 977	6.0%	2, 219	6.0%	628	6. 5%	2, 607	6.0%	601	3. 7%
	5:技	術	2, 136	1. 9%	683	2. 1%	758	2. 0%	236	2. 4%	869	2.0%	340	2. 1%
	6:産	業	611	0. 5%	363	1. 1%	353	1.0%	81	0.8%	493	1. 1%	90	0.6%
	7:芸	術	8, 874	7. 9%	7, 668	23. 3%	5, 737	15. 5%	1, 561	16. 1%	5, 285	12. 2%	5, 549	34. 1%
	8: 言	語	1, 786	1. 6%	566	1. 7%	555	1. 5%	163	1. 7%	471	1. 1%	144	0.9%
	9:文	学	27, 055	24. 2%	7, 596	23. 1%	9, 612	26.0%	2, 589	26. 7%	15, 113	34. 9%	3, 058	18.8%
		芝居	36, 774	32. 8%	11, 565	35. 2%	14, 755	39. 9%	3, 749	38. 7%	15, 318	35. 3%	5, 806	35. 7%
		庫	20, 279	18. 1%	1	0.0%	15	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	4	0.0%
		計	111, 949	<i>29.</i> 4%	32, 893	<i>27. 7%</i>	36, 986	<i>29. 1%</i>	9, 689	<i>42. 9%</i>	<i>43, 352</i>	<i>57. 6%</i>	<i>16, 259</i>	<i>45. 0%</i>
雑	誌		7, 997	2. 1%	5, 067	<i>4. 3%</i>	4, 648		625	2. 8%	1, 534	2. 0%	1, 323	3. 7%
ビデオ・			1, 447	<i>0. 4%</i>	102	<i>O.</i> 1%	48	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	セットテ	-	3, 413	0. 9%	1, 383	<i>1. 2%</i>	9, 127	7. 2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	下政・郷土		5, 442	1. 4 %	2, 199	<i>1. 9%</i>	1, 230		93	<i>0.</i> 4%	294	<i>0.</i> 4%	0	0.0%
合	F	計	380, 828		118, 749		127, 016		22, 591		75, 265		36, 130	

分類別貸出冊数

≪一般書≫

館名 項目	電子	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	雑誌	AV資料	郷土行政	郷土作家	合計
花園図書館	21	3, 288	16, 328	28, 055	28, 752	22, 488	56, 559	12, 510	39, 228	4, 330	180, 369	28, 075	25, 531	210	270	446, 014
%	0. 0	0. 7	<i>3. 7</i>	<i>6. 3</i>	<i>6. 4</i>	<i>5. 0</i>	12. 7	2.8	8.8	1. 0	40. 4	<i>6. 3</i>	<i>5. 7</i>	0.0	0. 1	100
永和図書館	8	3, 120	15, 034	21, 140	19, 041	14, 697	44, 772	6, 764	35, 126	3, 450	159, 564	22, 783	10, 077	201	33	355, 810
%	0. 0	0. 9	<i>4. 2</i>	<i>5. 9</i>	<i>5. 4</i>	4. 1	12. 6	1. 9	9. 9	1. 0	44.8	<i>6. 4</i>	2.8	0. 1	0.0	100
旭町図書館	2	1, 497	10, 213	19, 116	14, 417	11, 324	28, 728	6, 688	33, 645	2, 558	124, 280	18, 346	22, 899	114	138	293, 965
%	0. 0	<i>0. 5</i>	<i>3. 5</i>	<i>6. 5</i>	4. 9	3. 9	9.8	2. 3	11. 4	0. 9	42. 3	6. 2	7.8	0. 0	0.0	100
石切分室	0	157	1, 125	2, 003	1, 242	1, 461	4, 907	658	4, 481	260	16, 508	2, 949	451	12	6	36, 220
%	0. 0	0. 4	<i>3. 1</i>	<i>5. 5</i>	3. 4	4. 0	<i>13. 5</i>	1.8	12. 4	0. 7	45. 6	<i>8. 1</i>	1. 2	0.0	0.0	100
大蓮分室	0	346	1, 909	3, 766	3, 263	2, 991	9, 046	1, 611	7, 710	437	35, 485	7, 353	707	12	3	74, 639
%	0. 0	<i>0. 5</i>	2. 6	<i>5. 0</i>	4. 4	4. 0	12. 1	2. 2	<i>10. 3</i>	0.6	47. 5	9. 9	0. 9	0.0	0.0	100
移動図書館	5	427	2, 368	2, 072	2, 748	2, 753	11, 803	1, 252	7, 762	361	45, 067	10, 658	353	1	33	87, 663
%	0. 0	<i>0. 5</i>	2. 7	2. 4	3. 1	3. 1	<i>13. 5</i>	1. 4	<i>8. 9</i>	0. 4	<i>51. 4</i>	12. 2	0. 4	0. 0	0.0	100

24 ≪児童書≫

◎儿里自∥												
館名 項目	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	合計
花園図書館	934	4, 271	6, 434	1, 891	11, 281	5, 809	713	47, 238	3, 063	55, 253	81, 881	218, 768
%	0. 4	2. 0	2. 9	0. 9	<i>5. 2</i>	2. 7	<i>0. 3</i>	21. 6	1. 4	<i>25. 3</i>	<i>37. 4</i>	100
永和図書館	631	2, 122	4, 096	1, 505	7, 853	3, 277	651	53, 347	2, 277	35, 396	52, 660	163, 815
%	0. 4	1. 3	2. 5	0. 9	4.8	2. 0	0. 4	<i>32. 6</i>	1. 4	21. 6	<i>32. 1</i>	100
旭町図書館	576	2, 164	3, 209	917	6, 018	2, 309	380	35, 613	1, 427	25, 471	41, 709	119, 793
%	0. 5	1.8	2. 7	0.8	<i>5. 0</i>	<i>1. 9</i>	<i>0. 3</i>	29. 7	<i>1. 2</i>	21. 3	<i>34.</i> 8	100
石切分室	85	309	228	130	825	358	65	5, 784	212	3, 522	7, 212	18, 730
%	0. 5	1. 6	1. 2	0. 7	4. 4	<i>1. 9</i>	<i>0. 3</i>	<i>30. 9</i>	1. 1	<i>18.</i> 8	<i>38. 5</i>	100
大蓮分室	158	989	1, 352	551	2, 430	1, 239	130	23, 385	641	13, 369	18, 216	62, 460
%	<i>0. 3</i>	1. 6	2. 2	0. 9	3. 9	2. 0	<i>0. 2</i>	37. 4	1. 0	21. 4	29. 2	100
移動図書館	216	878	1, 209	598	2, 865	1, 571	239	29, 379	898	12, 337	28, 284	78, 474
%	<i>0. 3</i>	1. 1	1. 5	0.8	<i>3. 7</i>	2. 0	<i>0. 3</i>	37. 4	1. 1	<i>15. 7</i>	<i>36. 0</i>	100

(注)

①各項目は次のようにまとめる

「参考図書」 ⇒ 各分類に

「点字図書」 ⇒ 「社会科学」

「大活字本」 ⇒ 「文学」

「郷土資料」「行政資料」⇒「郷土行政」

「司馬遼太郎」「その他の郷土作家」

⇒「郷土作家」

「絵本」「さわる絵本」「紙芝居」

⇒「絵本」

- ②「家庭文庫」「読書会」等の各資料は 対象から除外
- ③「電子」は、雑誌・本などの付録CDや CD-ROM等である
- ④AV資料の花園館は館内利用数、その 他は貸出数である

平成26年度 東大阪市立 小中学校児童生徒数・学級数 (5月1日現在)

	児童数	クラス数
縄手小学校	312	14
縄手北小学校	311	15
枚岡東小学校	507	21
枚岡西小学校	913	28
石切小学校	847	30
孔舎衙小学校	706	24
縄手南小学校	825	28
池島小学校	563	21
上四条小学校	255	12
縄手東小学校	320	14
孔舎衙東小学校	463	17
石切東小学校	599	22
成和小学校	1,248	42
北宮小学校	699	25
弥栄小学校	455	16
玉川小学校	522	20
玉美小学校	308	16
英田北小学校	989	33
若江小学校	686	25
花園小学校	355	15
鴻池東小学校	567	22
玉串小学校	499	19
岩田西小学校	711	27
英田南小学校	606	23
加納小学校	577	23
花園北小学校	227	10

 〇 小学校
 54校

 〇 中学校
 26校

	児童数	クラス数
荒川小学校	398	17
長堂小学校	298	14
三ノ瀬小学校	99	7
高井田東小学校	541	23
森河内小学校	593	22
菱屋西小学校	257	12
太平寺小学校	247	11
高井田西小学校	173	9
楠根小学校	562	23
意岐部小学校	416	17
小阪小学校	330	15
上小阪小学校	532	21
弥刀小学校	291	15
長瀬北小学校	245	12
長瀬東小学校	173	12
八戸の里小学校	388	16
永和小学校	121	9
長瀬南小学校	250	11
弥刀東小学校	383	16
長瀬西小学校	262	13
楠根東小学校	760	29
柏田小学校	208	12
西堤小学校	576	23
大蓮小学校	258	12
意岐部東小学校	217	9
大蓮東小学校	127	8
八戸の里東小学校	432	17
藤戸小学校	401	16
合計	24,608	983

	児童数	クラス数
縄手中学校	291	10
枚岡中学校	732	22
石切中学校	784	24
縄手北中学校	295	11
池島中学校	295	11
孔舎衙中学校	659	22
縄手南中学校	471	16
盾津中学校	1,084	33
玉川中学校	632	22
英田中学校	871	27
花園中学校	659	21
盾津東中学校	658	20
若江中学校	485	16
長栄中学校	431	17
新喜多中学校	514	19
金岡中学校	192	8
太平寺中学校	166	7
俊徳中学校	233	8
上小阪中学校	464	16
楠根中学校	571	17
意岐部中学校	296	12
高井田中学校	310	11
小阪中学校	566	17
長瀬中学校	347	11
弥刀中学校	382	14
柏田中学校	260	11
合計	12,783	430